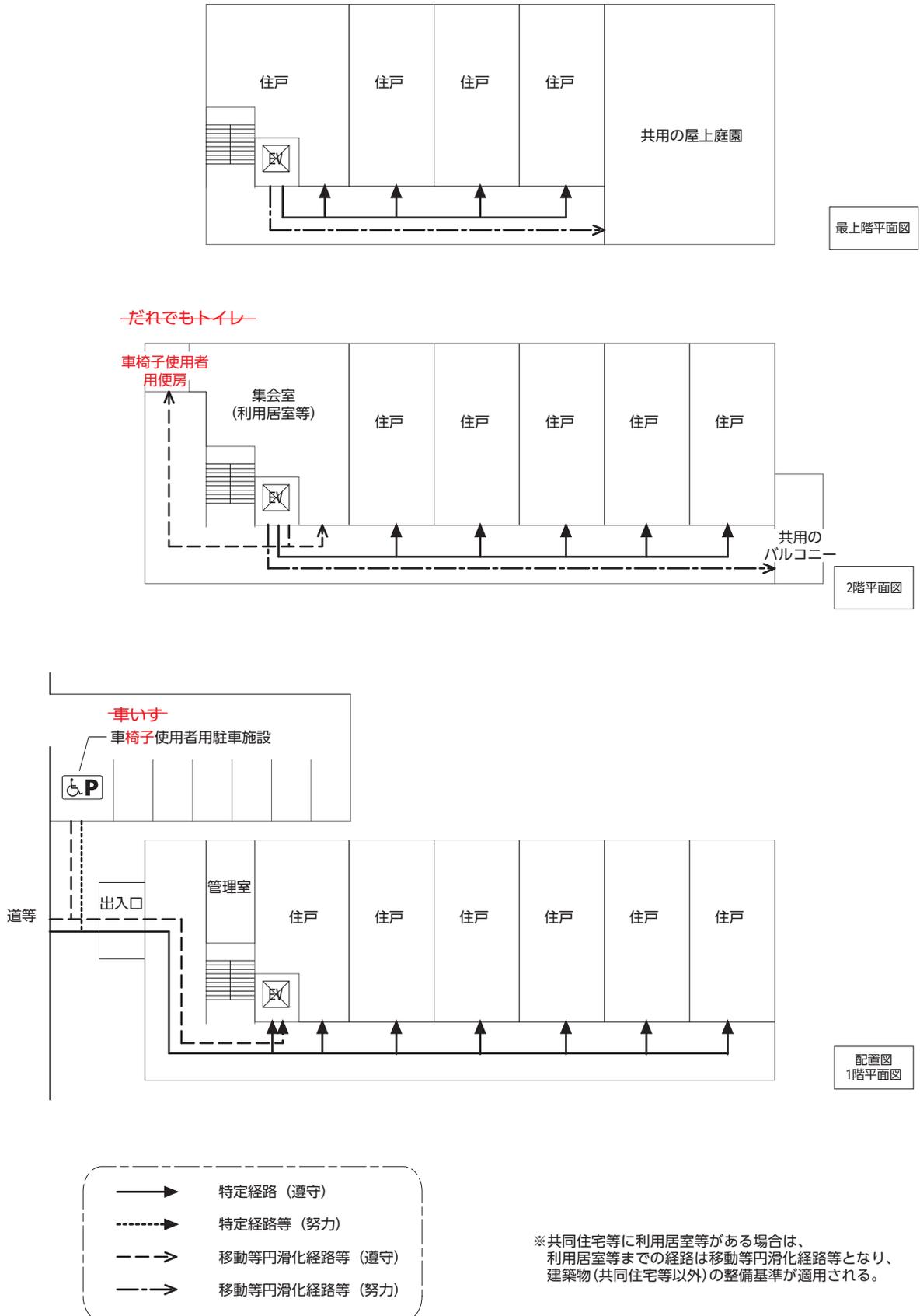


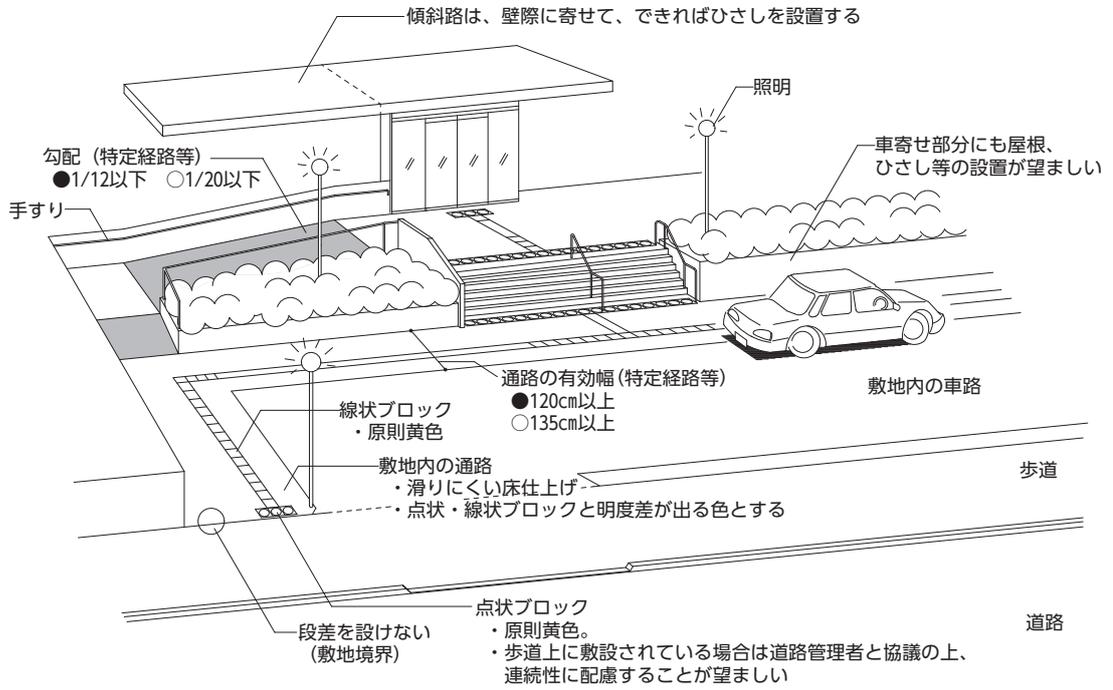
# 《 参 考 図 》

【図1.1】 特定経路等の考え方



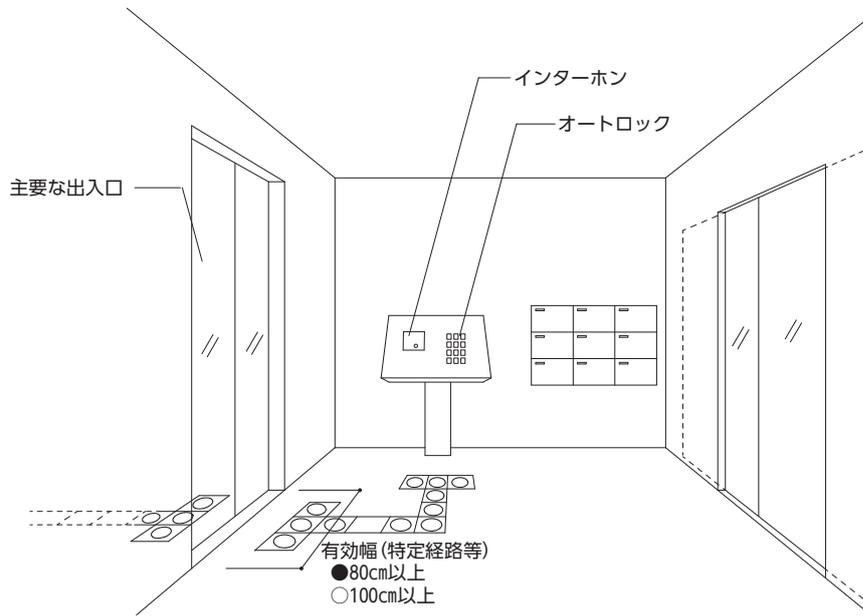
# 《 参 考 図 》

【図1.2】 特定経路等に傾斜路を設けた例



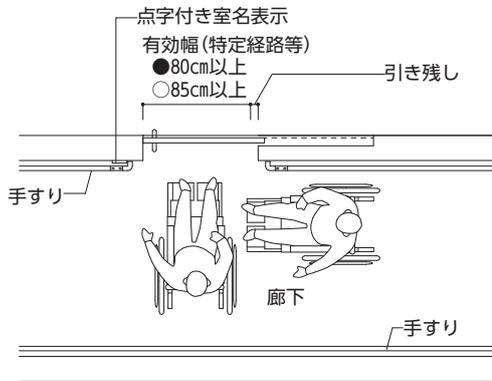
# 《 参 考 図 》

【図2.1】 出入口の整備例

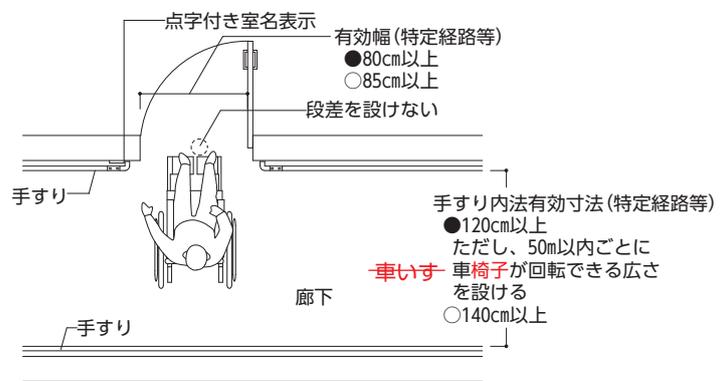


【図2.2】 戸幅の寸法

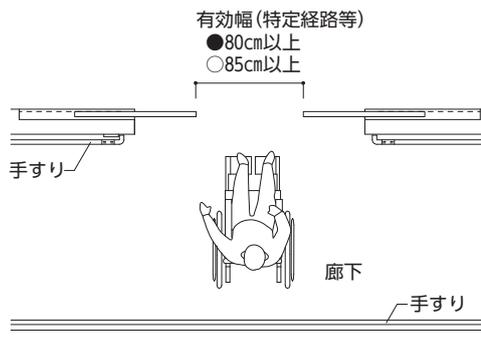
## ■引き戸の場合



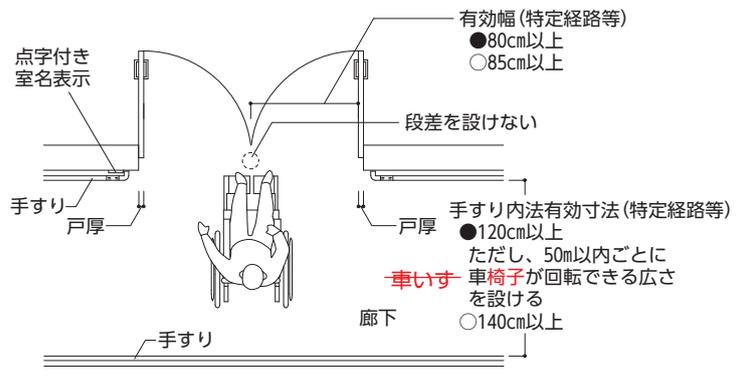
## ■開き戸の場合



## ■自動扉の場合



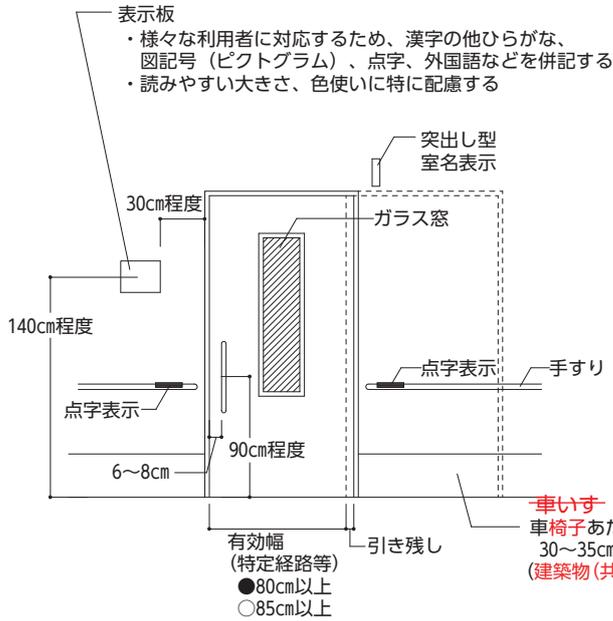
## ■両開き戸の場合



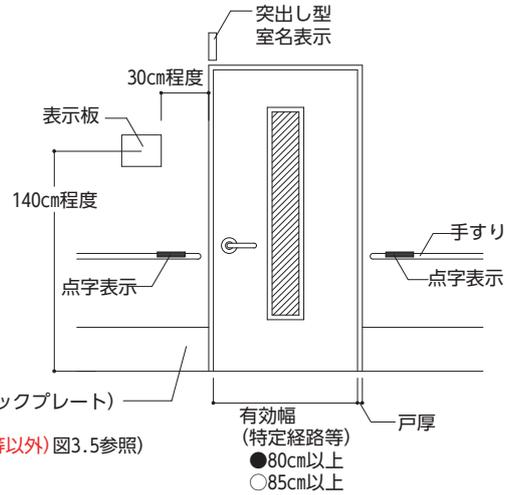
# 《 参 考 図 》

【図2.3】 出入口の例

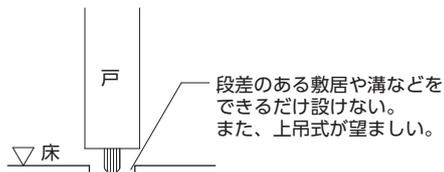
■引き戸の場合



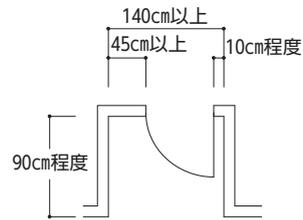
■開き戸の場合



【図2.4】 引き戸への配慮



【図2.5】 アルコーブの各部寸法

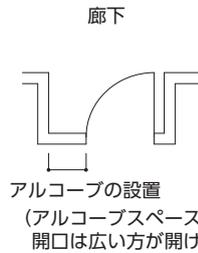


【図2.6】 開き戸への配慮

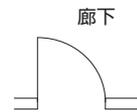
■内開き ○



■外開き(アルコーブ付) ○



■外開き ×



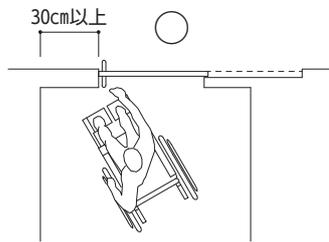
※外開き戸は、高齢者、障害者等の利用を考慮すると好ましくない。そのため建築基準法施行令第118条で内開き戸が禁止されている建築用途にあって外開き戸を設置する際にはアルコーブを設ける等の配慮が必要である。

## 《 参 考 図 》

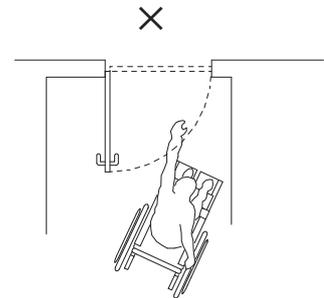
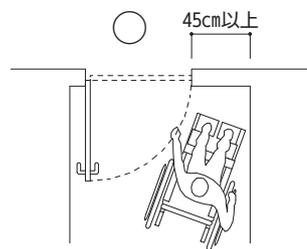
—車いす—

【図2.7】 車椅子使用者のための開閉スペースの設置

■引き戸の場合



■開き戸の場合

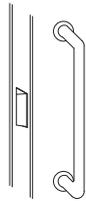


※袖壁は、引き戸の場合は30cm以上、開き戸の場合は45cm以上を確保すると、  
 車椅子使用者が戸を開閉しやすい。また、必要となる袖壁と開閉スペースは、  
 戸の開閉機構、取っ手の形状、周囲の状況等によって異なるため、設計にあたってはそれらを考慮したうえで、袖壁と開閉スペースを確保する。

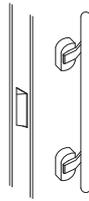
—車いす—

【図2.8】 取っ手の使いやすさ

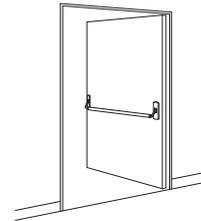
■棒状 ○



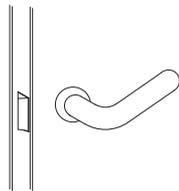
■プッシュプルハンドル ○



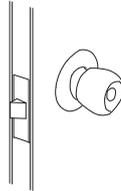
■パニックバー ○



■レバーハンドル ○

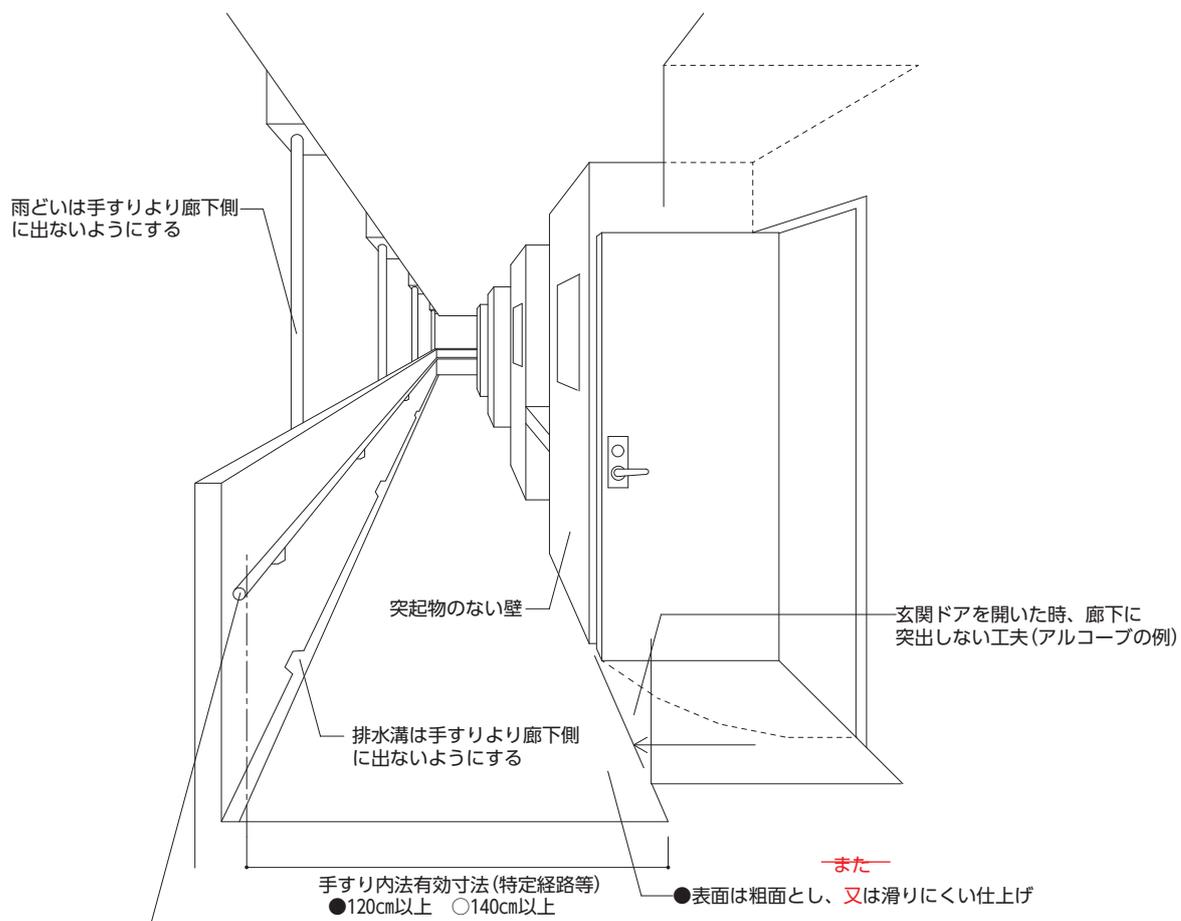


■握り玉 ×



# 《 参 考 図 》

## 【図3.1】 共用廊下の整備例

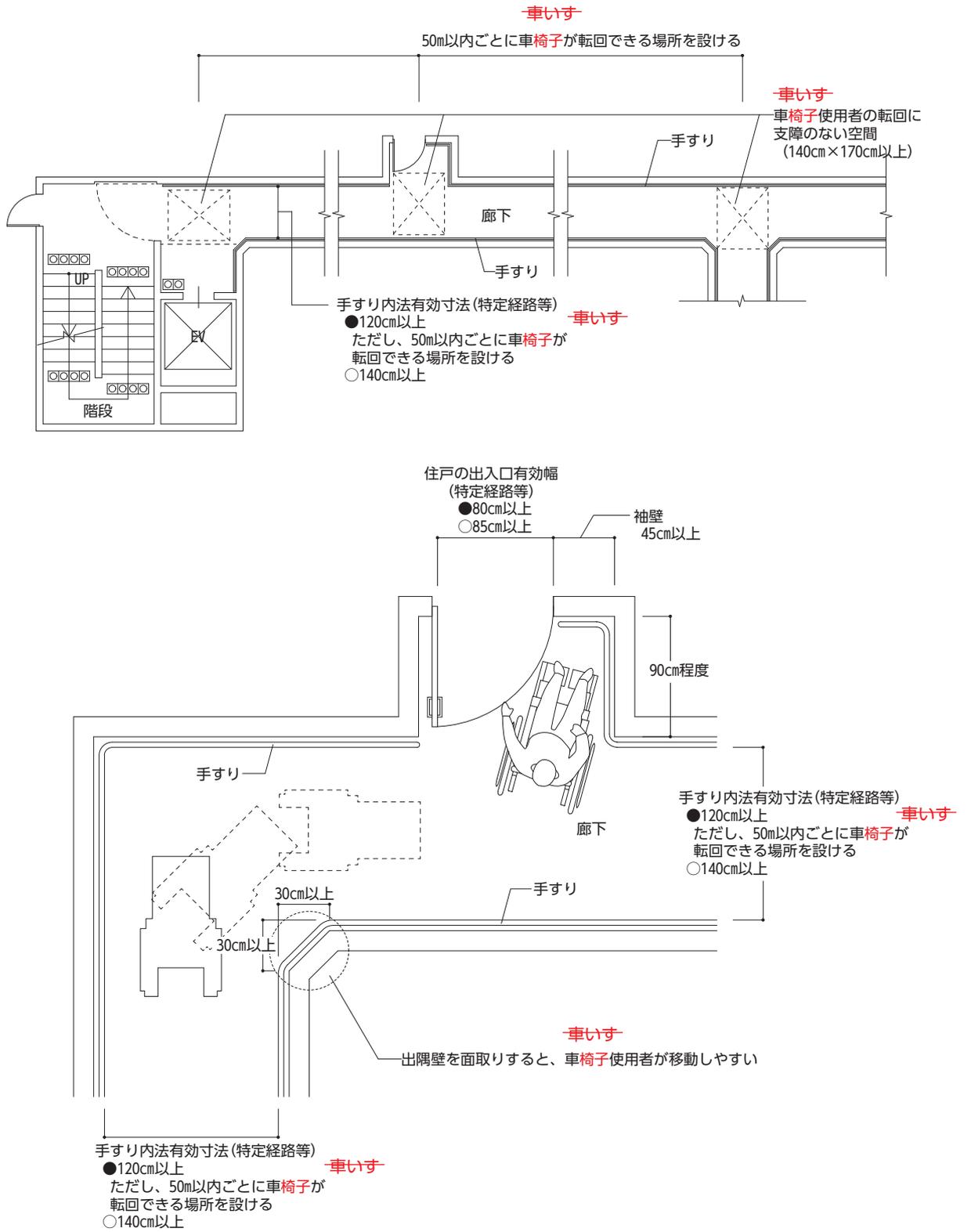


### 手すり

転落防止に十分配慮したうえで、誘導用の手すりを設ける。  
また、子どもなどが柵を乗り越えないように足掛かりになるものを置かない。

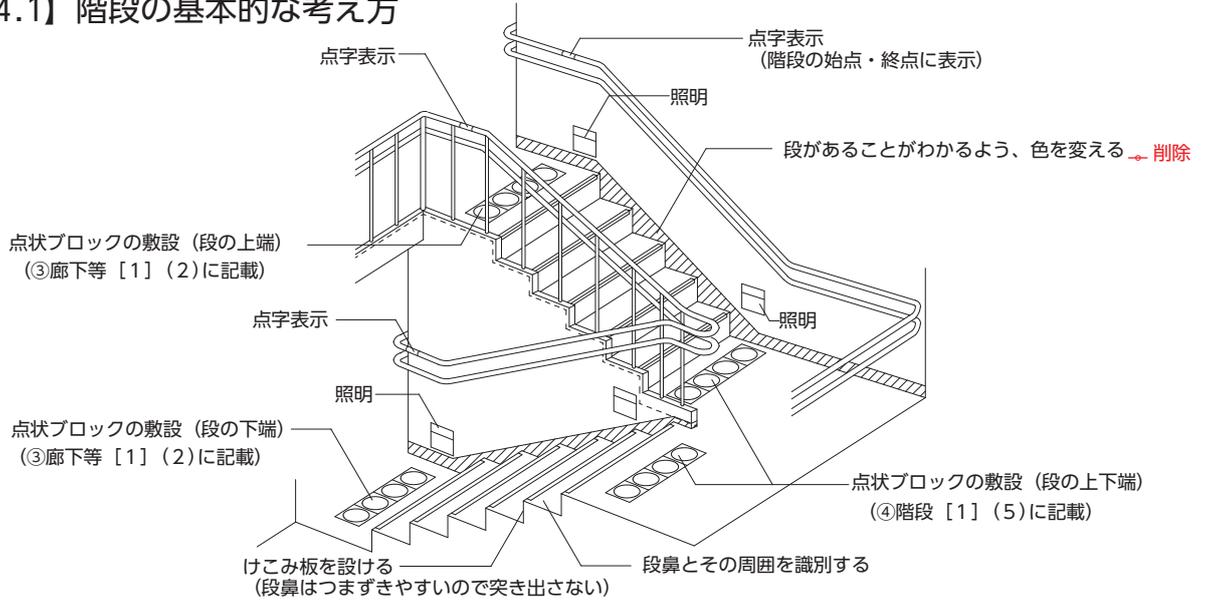
# 《 参 考 図 》

【図3.2】 廊下の基本的な考え方

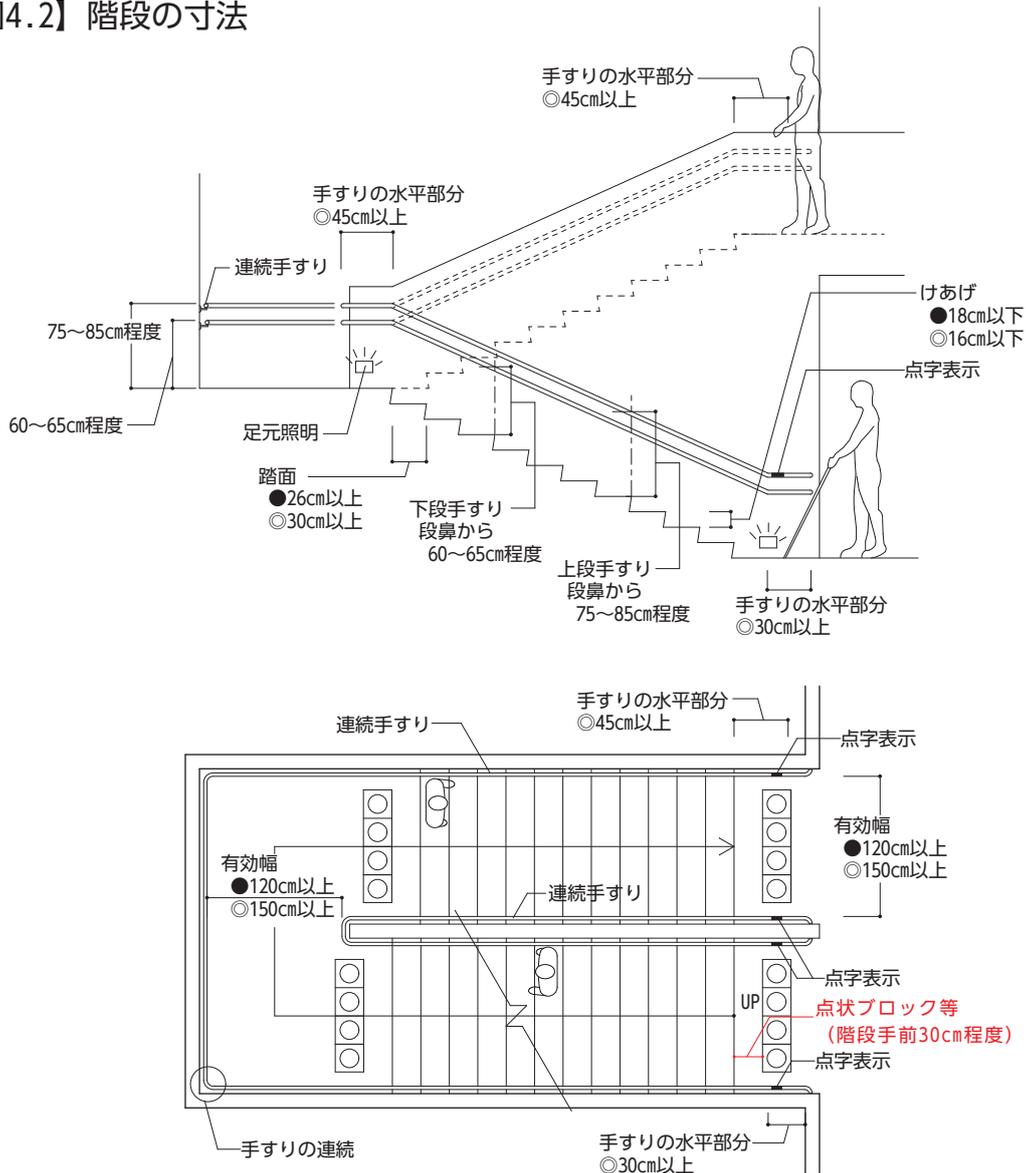


# 《 参 考 図 》

【図4.1】 階段の基本的な考え方

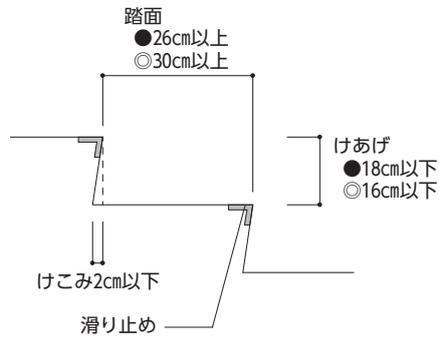


【図4.2】 階段の寸法

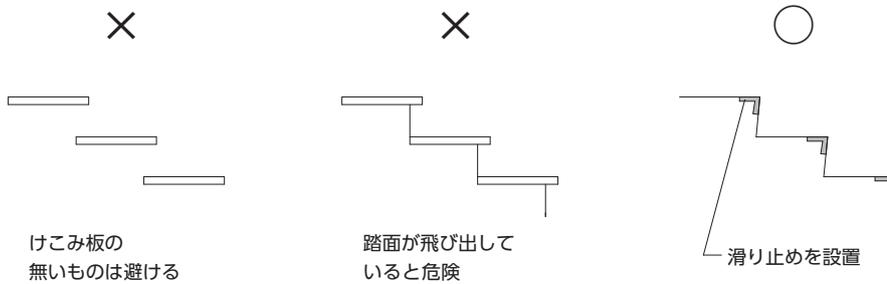


# 《 参 考 図 》

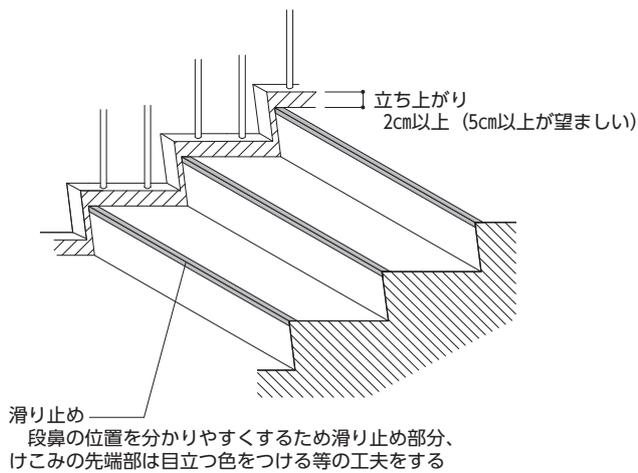
【図4.3】 踏面端部の例



【図4.4】 けあげ、路面の形状（つまずきにくい構造の例）



【図4.5】 踏面端部の例

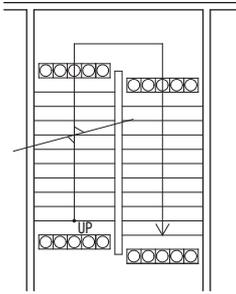


出典：削除

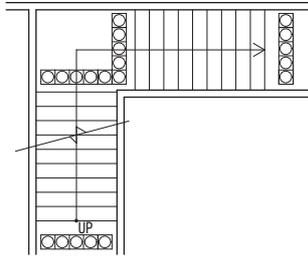
# 《 参 考 図 》

【図4.6】 階段の形状

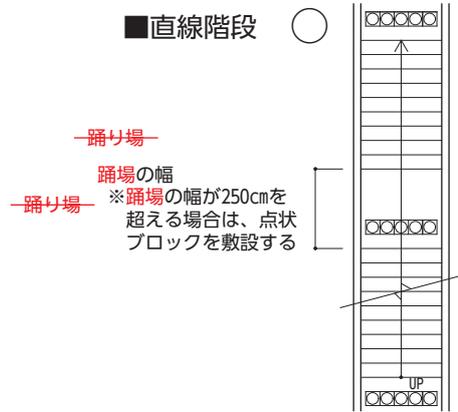
■折返し階段 ○



■折返し階段 ○

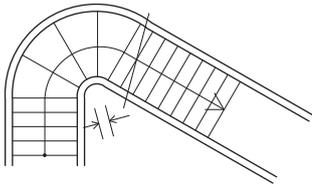


■直線階段 ○



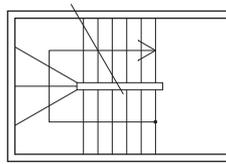
■回り階段 △

(構造上困難な場合に限る。  
また路面の最少寸法は30cm必要)



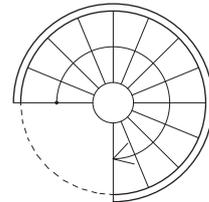
■回り階段 △

(構造上困難な場合等に限る)

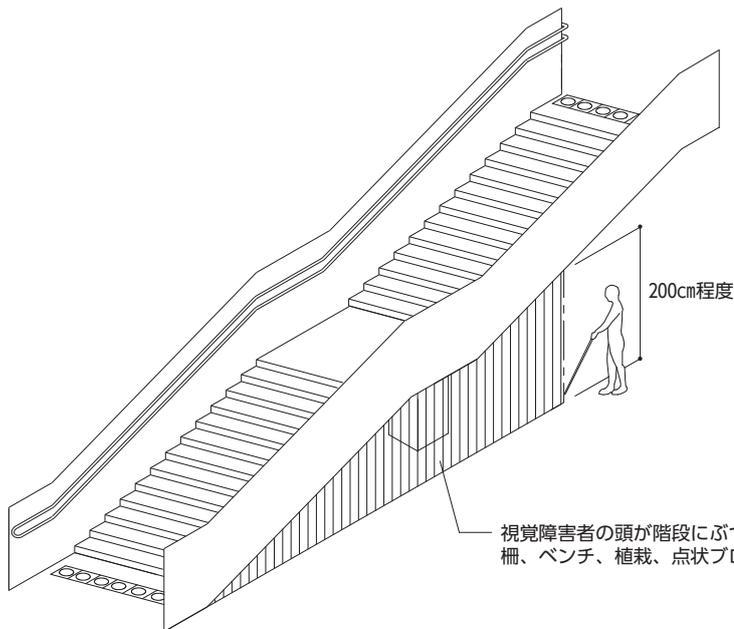


■らせん階段 ×

(らせん階段は主階段としない)



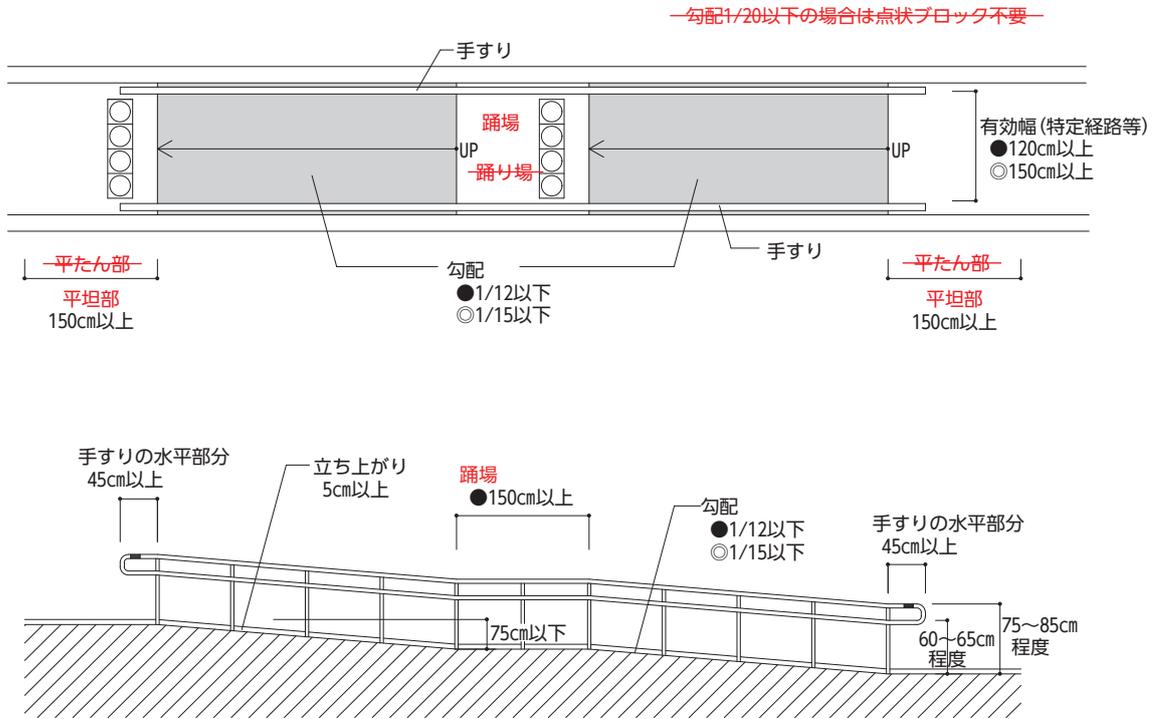
【図4.7】 視覚障害者に対する階段下の安全確保の措置の例



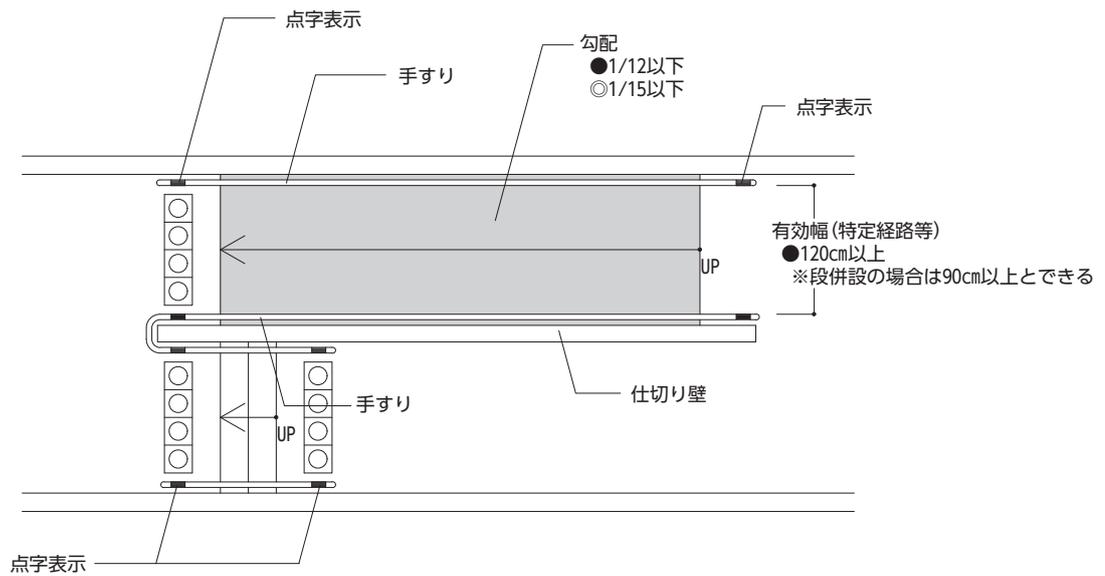
視覚障害者の頭が階段にぶつかる前に杖が当たるように、柵、ベンチ、植栽、点状ブロック等を適宜設ける

# 《 参 考 図 》

【図5.1】 傾斜路の仕様



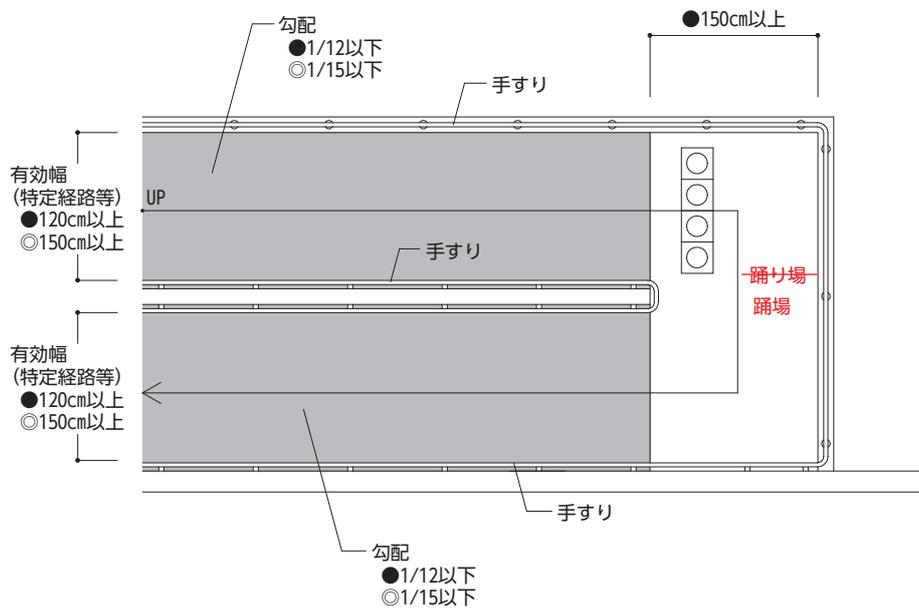
【図5.2】 段併設の例



《 参 考 図 》

踊り場

【図5.3】 踊場の設置例

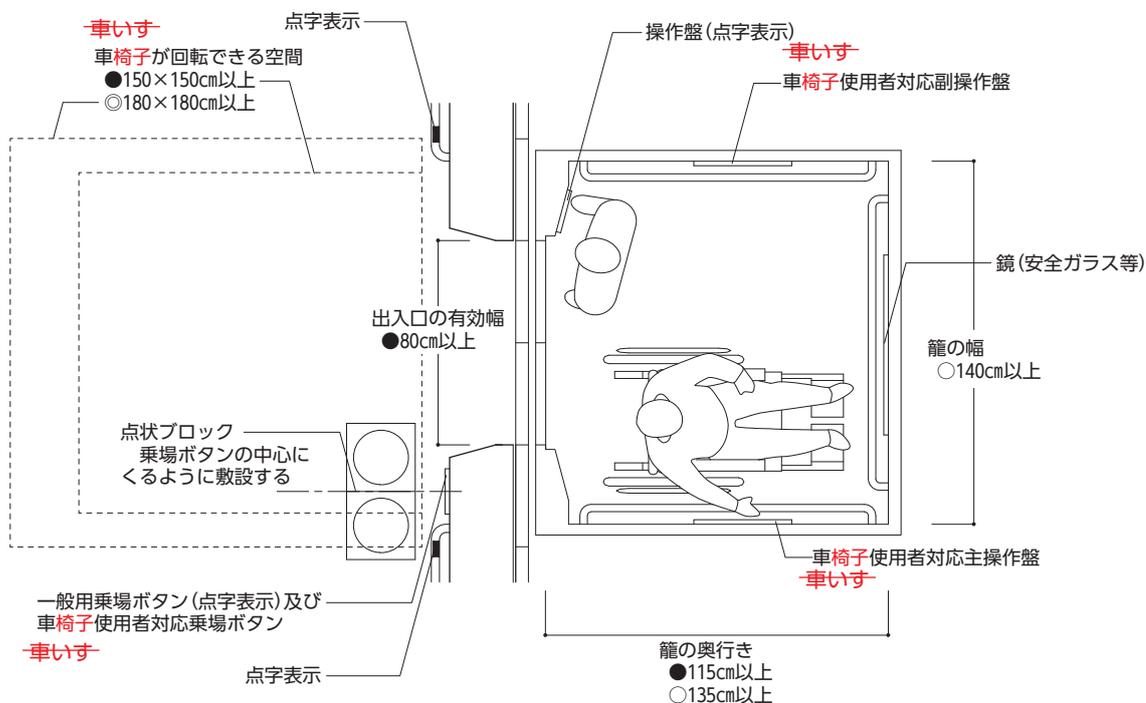


【図5.4】 案内表示例

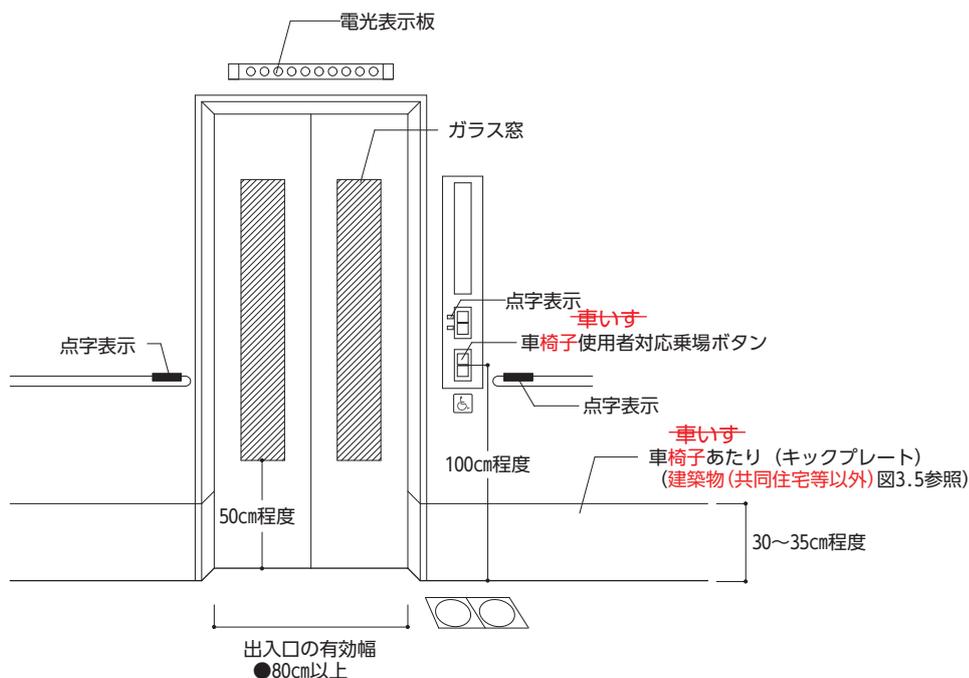


## 《 参 考 図 》

【図6.1】 エレベーターの平面図



【図6.2】 エレベーターの出入口(乗り場)

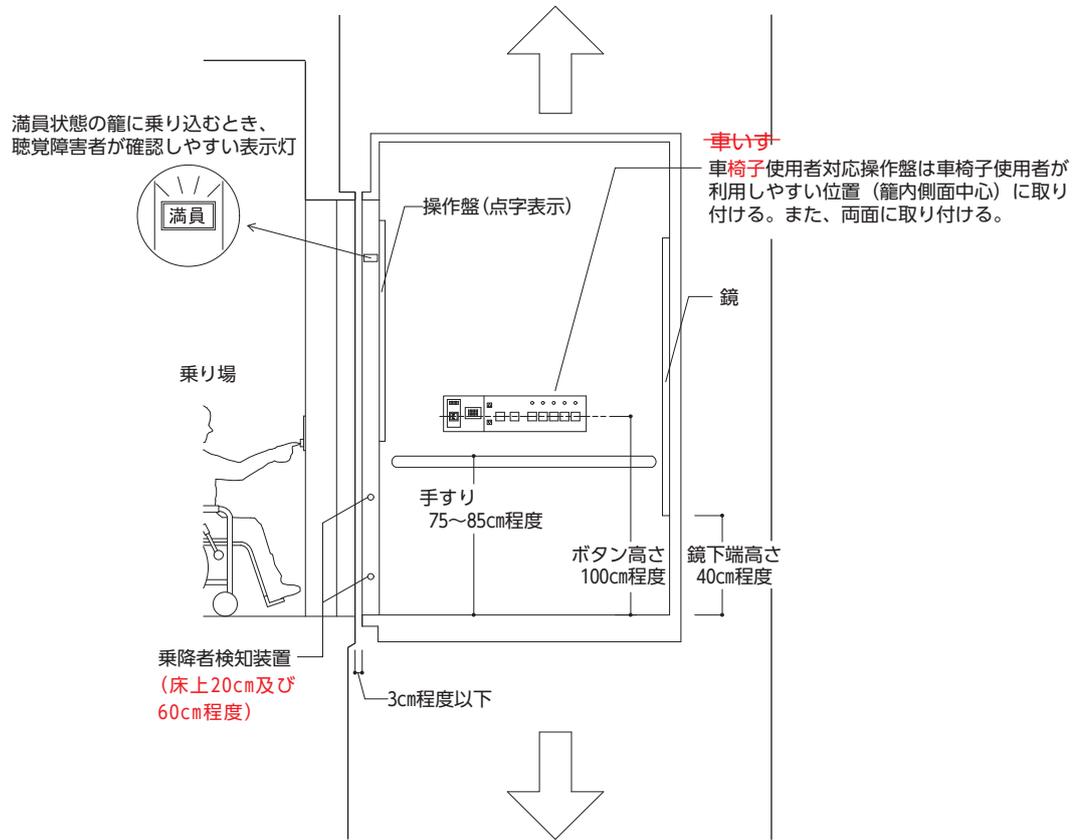


※エレベーター付近に下りの階段若しくは段、又は下りのスロープを設けない。  
やむを得ず設ける場合には、車椅子使用者等の転落防止等に十分配慮する。

車いす

# 《 参 考 図 》

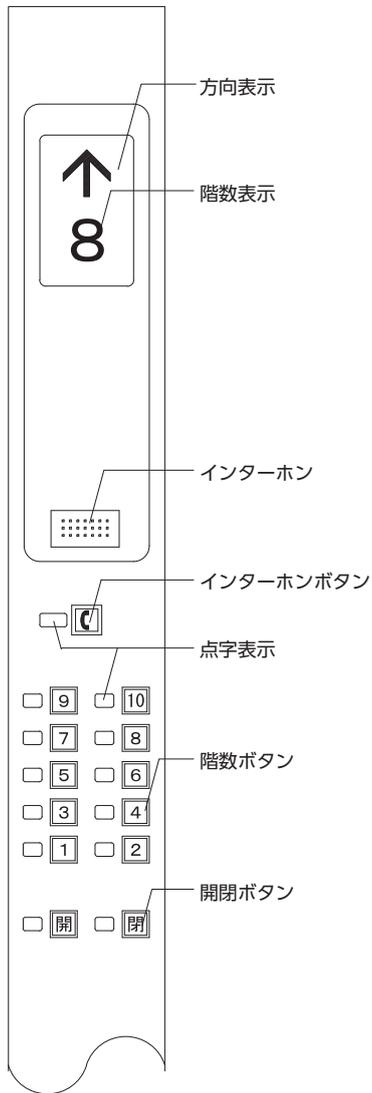
【図6.3】 籠内の断面図



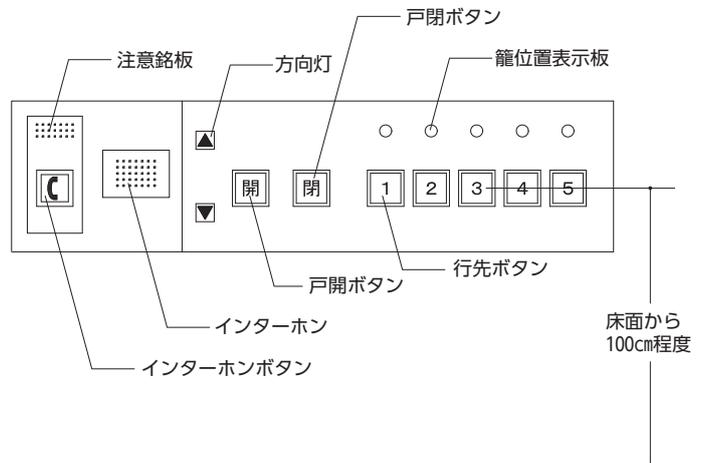
## 《 参 考 図 》

—車いす—

【図6.4】 縦型操作盤

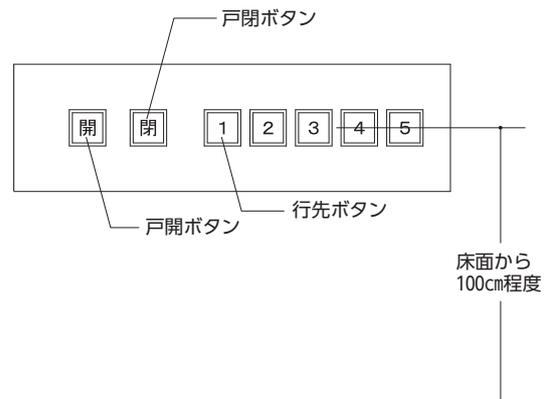


【図6.5】 車椅子使用者対応主操作盤



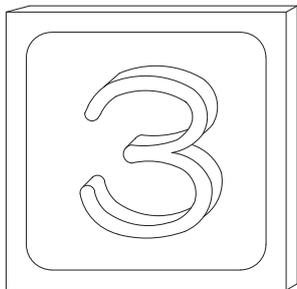
—車いす—

【図6.6】 車椅子使用者対応副操作盤



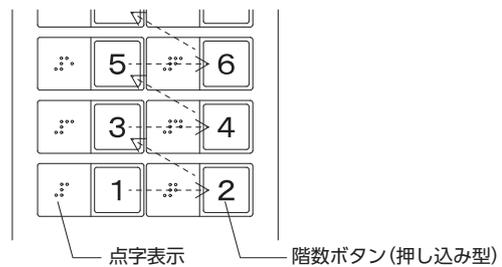
【図6.7】 階数ボタン

■浮き文字ボタン



※階数ボタンは浮き彫り階数表示が望ましい

■千鳥配列

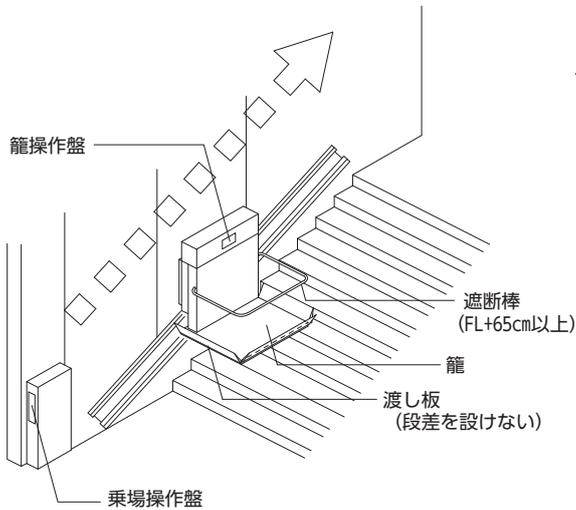


※階数ボタンが2列になる場合は千鳥配列が望ましい

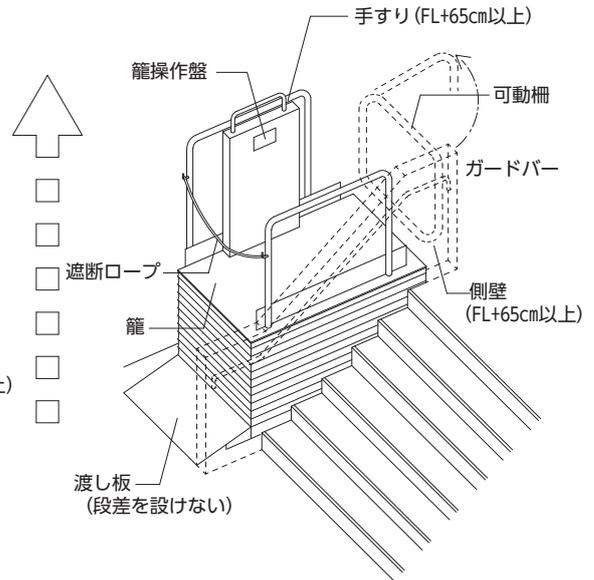
## 《 参 考 図 》

【図7.1】 斜行型段差解消機

※障害物検地装置を設置した場合  
壁又は囲いは設けなくてよい

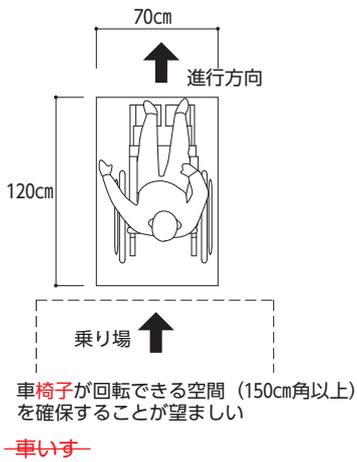


【図7.2】 垂直型段差解消機

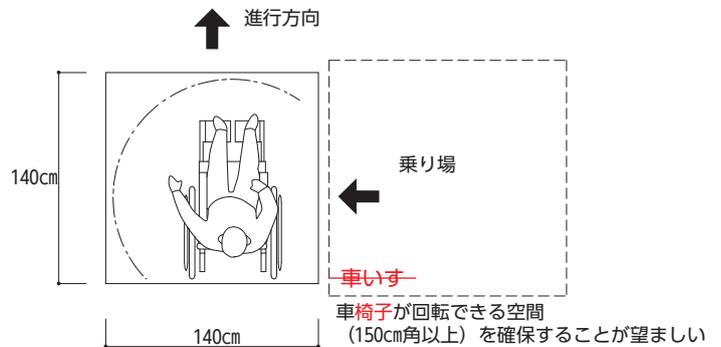


【図7.3】 籠の大きさ

■定員1名の籠（直線形式の場合）

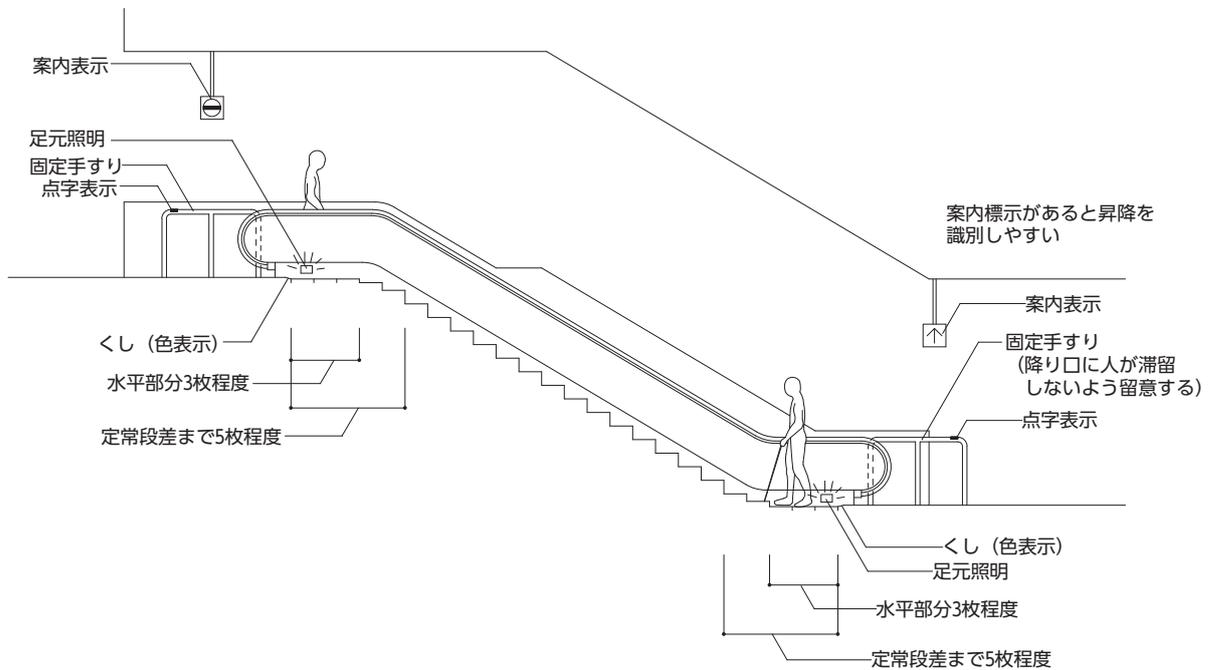
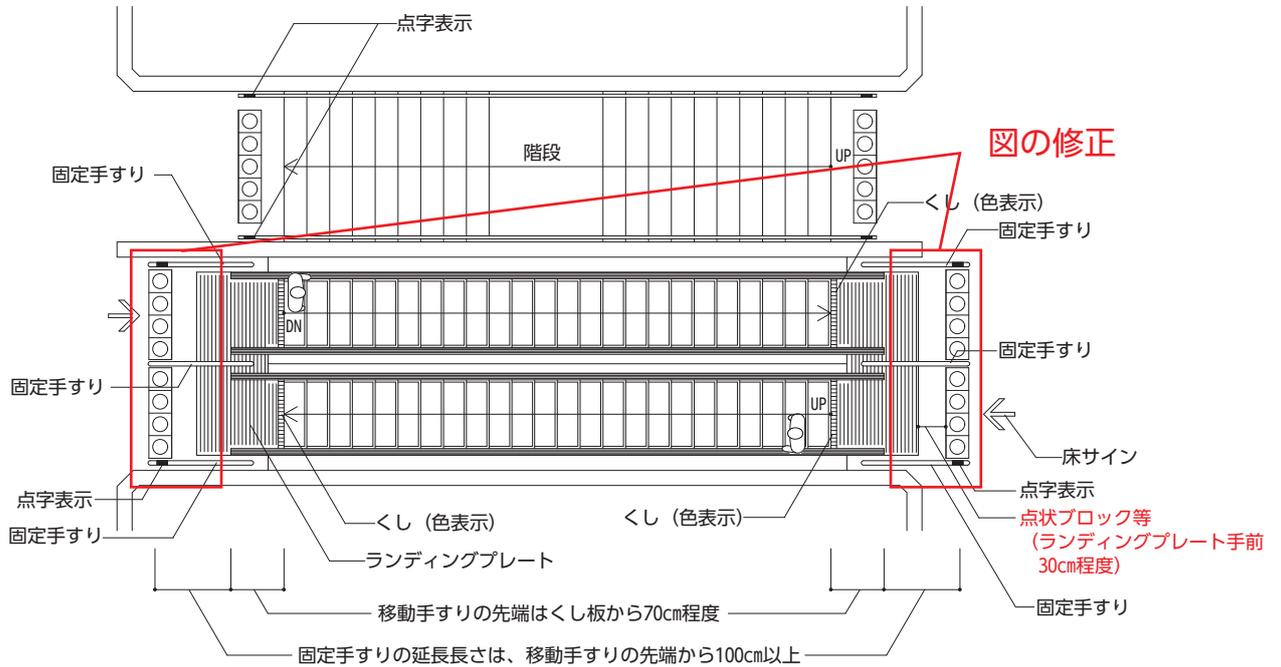


■定員1名の籠（90度の転回形式の場合）



# 《 参 考 図 》

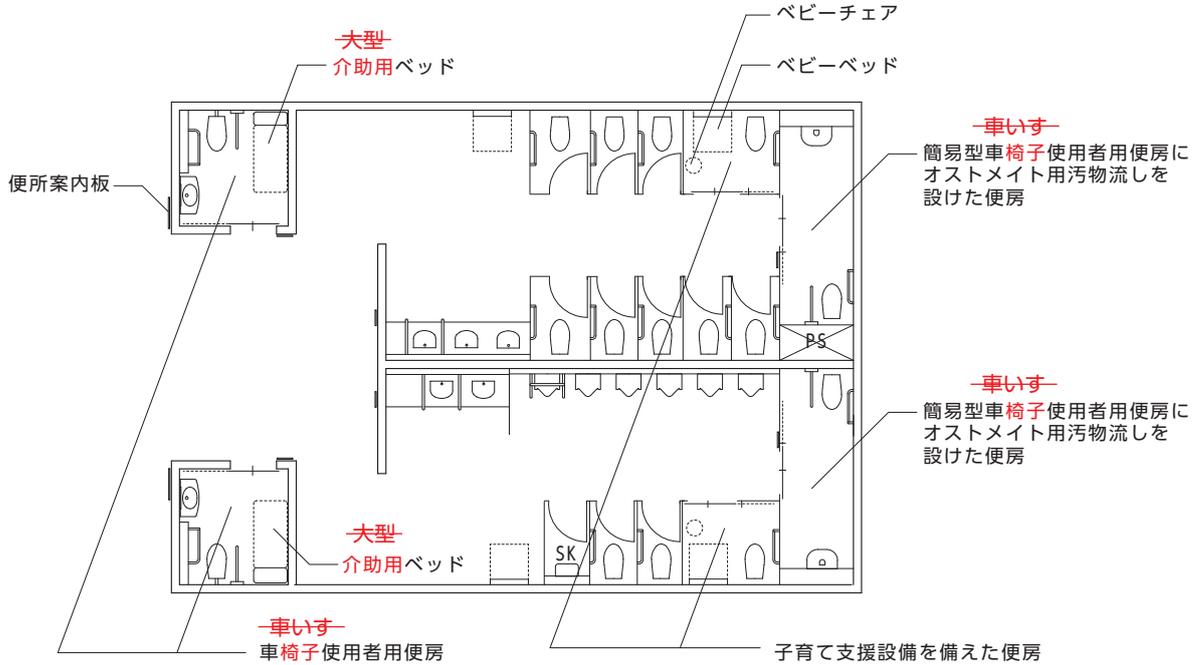
【図7.4】 エスカレーターの場合



# 《 参 考 図 》

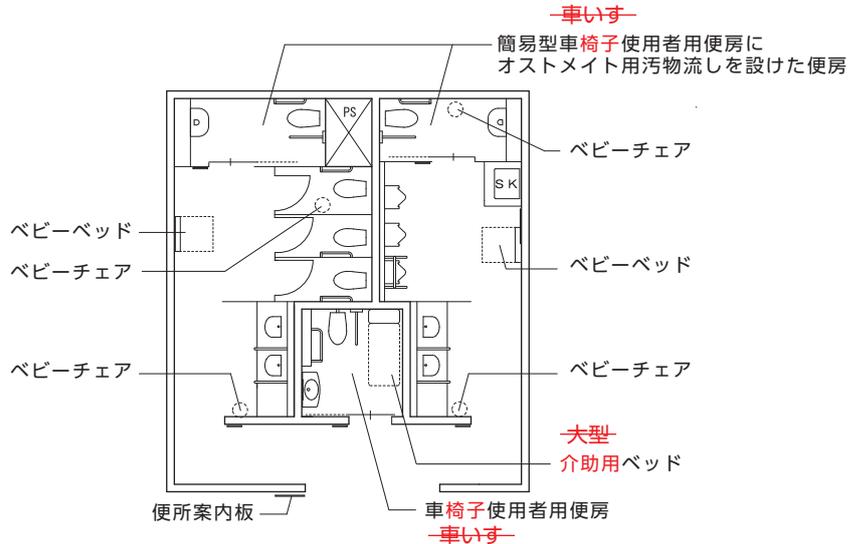
【図8.1】機能分散に配慮した便所の配置例

■左右対称の車椅子使用者用便房及びオストメイト対応便房を設けた例



—車いす使用者用便房又はだれでもトイレを1つ設けた例—

■車椅子使用者用便房を1つ設けた例



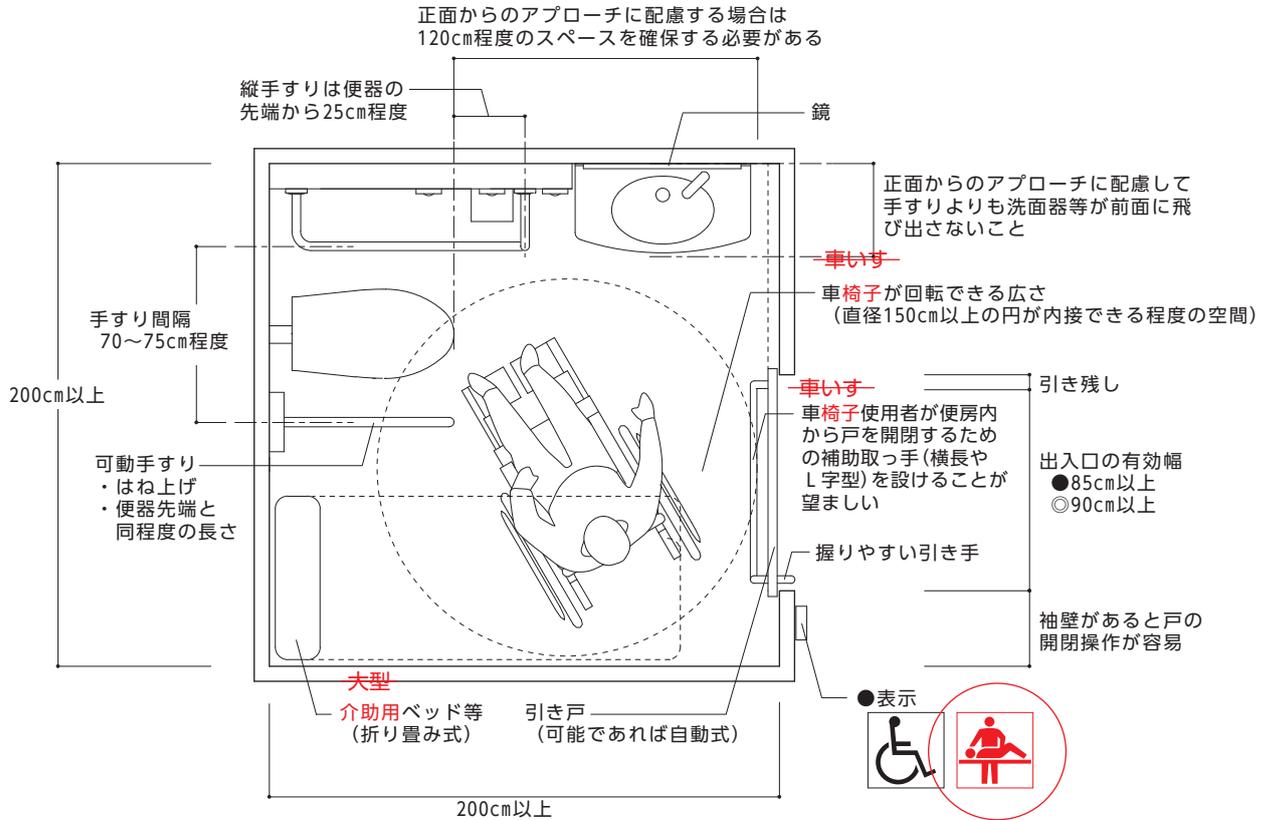
■便房設備の表示例



## 《 参 考 図 》

~~車いす~~

【図8.2】車椅子使用者用便房の例（内法200cm×200cm以上の場合）

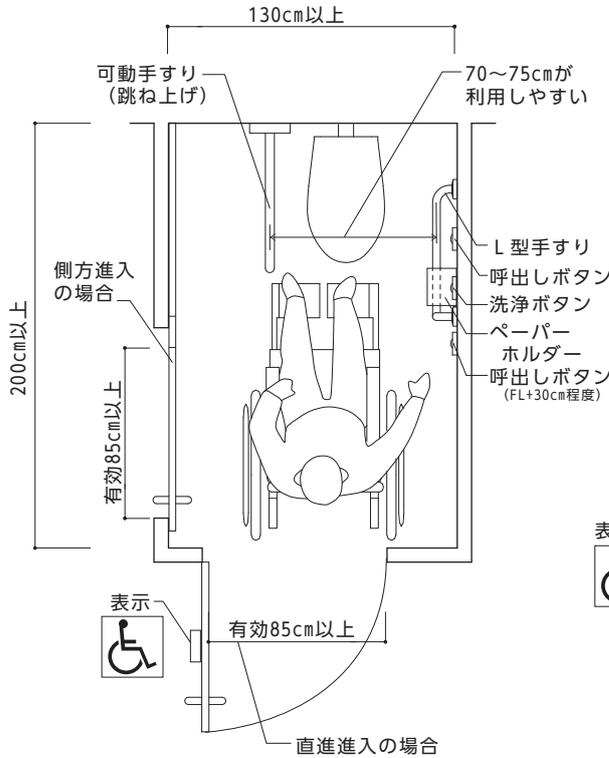


※介助用ベッド：折り畳み式介助用ベッド等を設置する場合、畳み忘れであっても、車椅子での出入りが可能となるよう、車椅子に乗ったままでも畳める構造、位置とすることが望ましい。また、次使用する人のために折り畳んでから退室するよう注意喚起を行う。

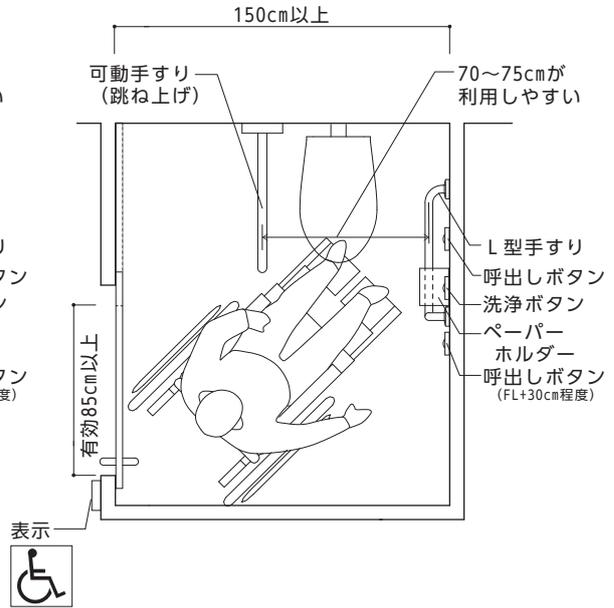
# 《 参 考 図 》

【図8.3】簡易型車椅子使用者用便房の例

■直進又は側方進入の場合

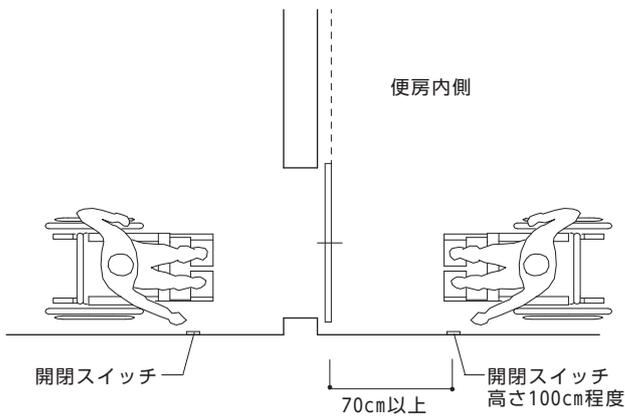


■側方進入の場合

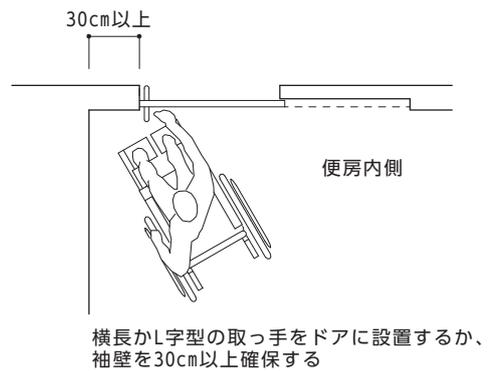


【図8.4】開閉ボタンや扉の取っ手の設置位置

■自動ドア（引き戸）の場合

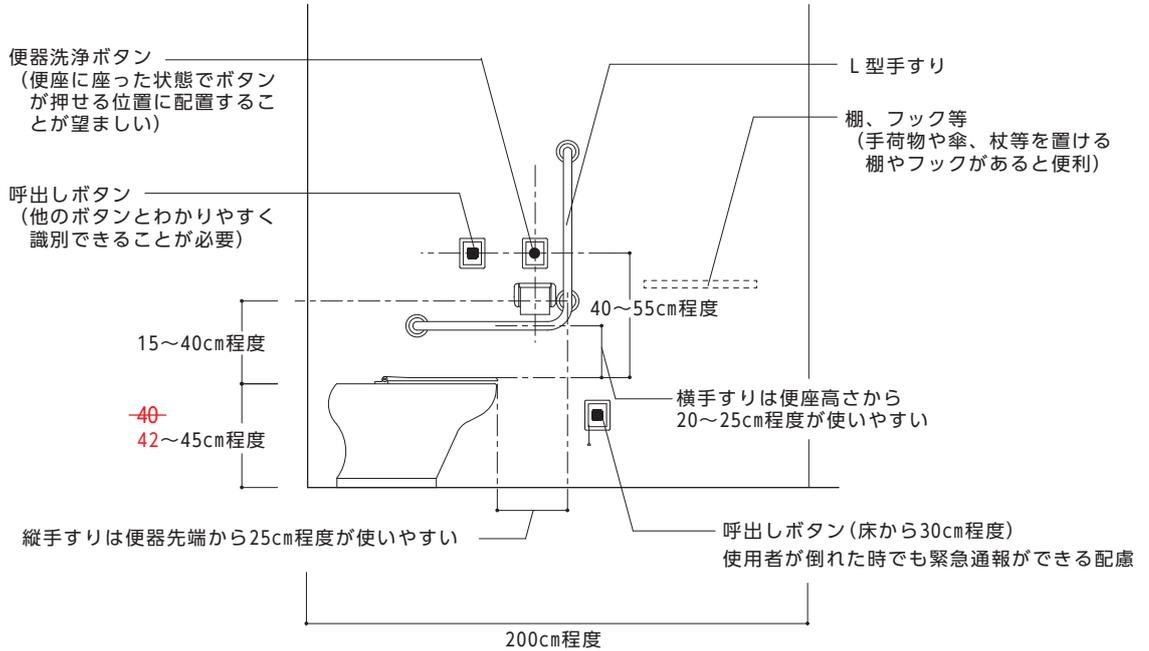


■手動ドア（引き戸）の場合



## 《 参 考 図 》

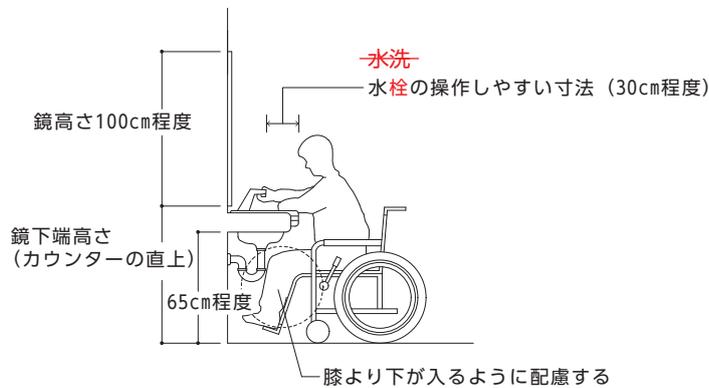
【図8.5】 ボタンの配置例



※ペーパーホルダー、便器洗浄ボタン、呼出しボタンはJIS S 0026参照

~~車いす~~

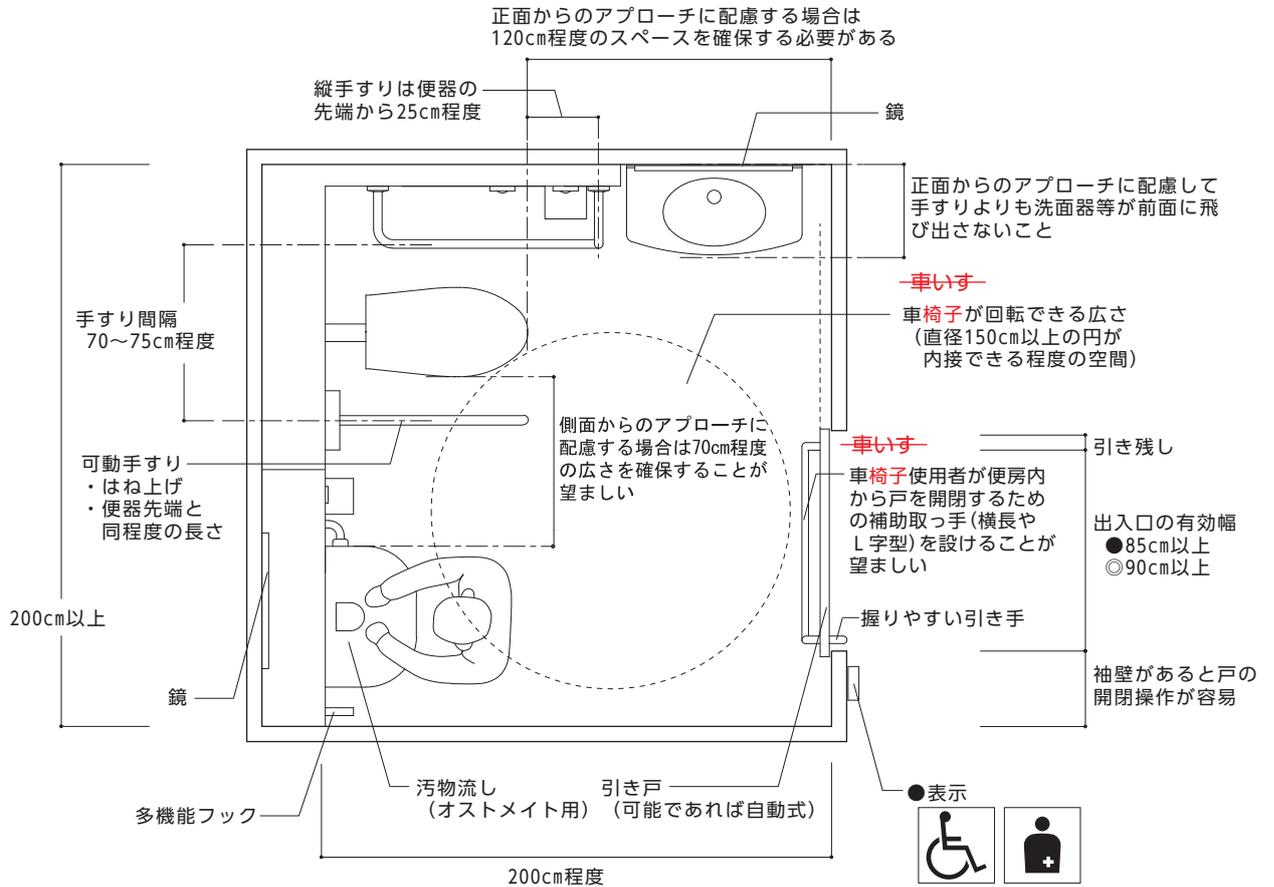
【図8.6】 ~~車椅子~~使用者が利用しやすい洗面台



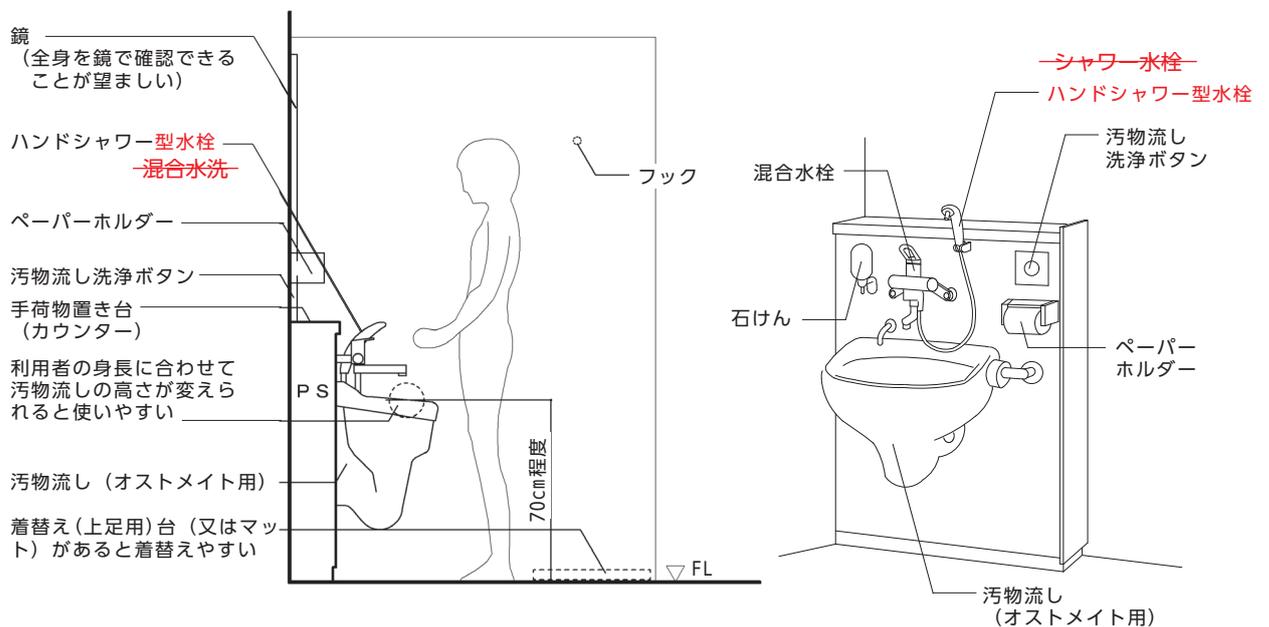
# 《 参 考 図 》

~~車いす~~

【図8.7】 車椅子使用者用便房にオストメイト用汚物流しを設けた例

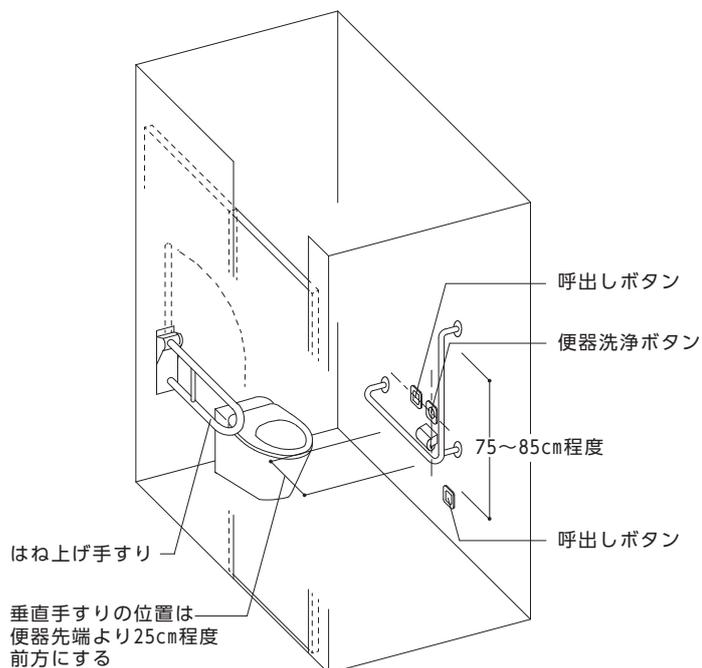


【図8.8】 オストメイト用汚物流しの例



## 《 参 考 図 》

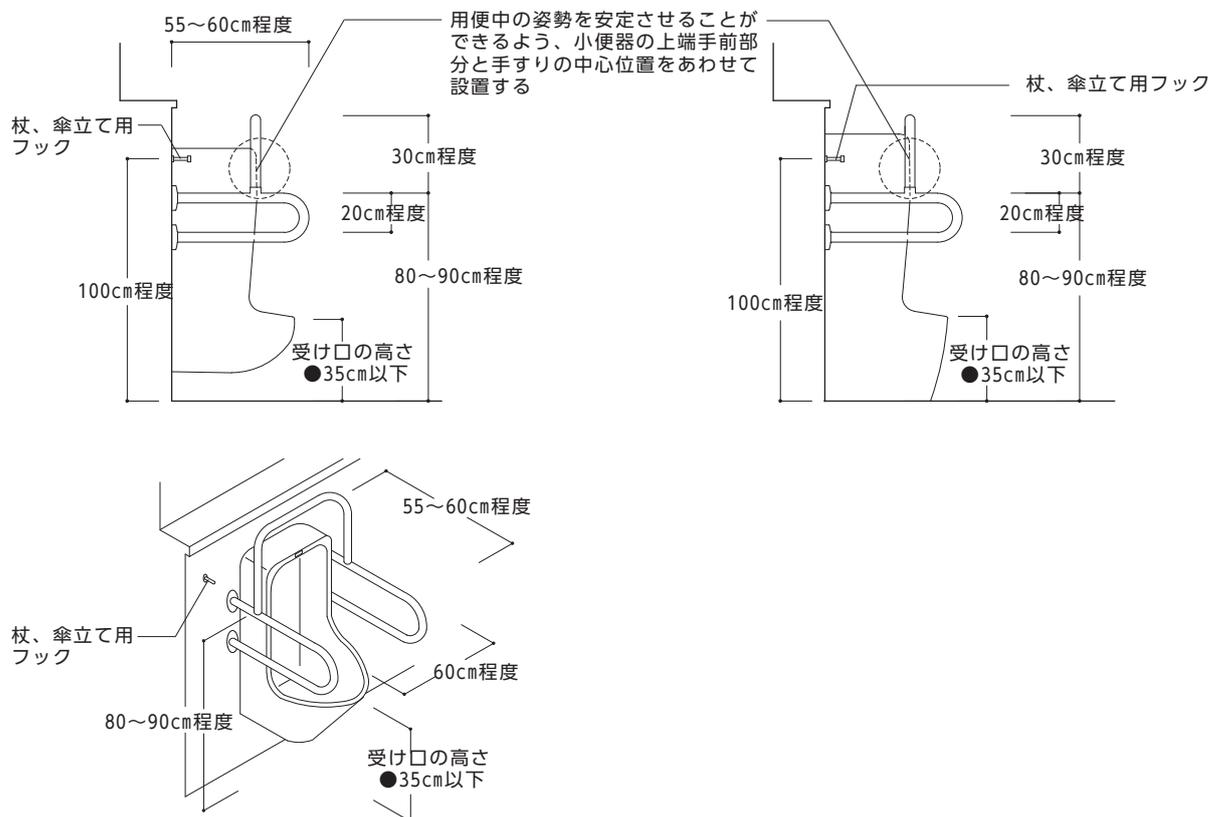
【図8.9】 大便器の手すりの例



【図8.10】 小便器の手すりの例

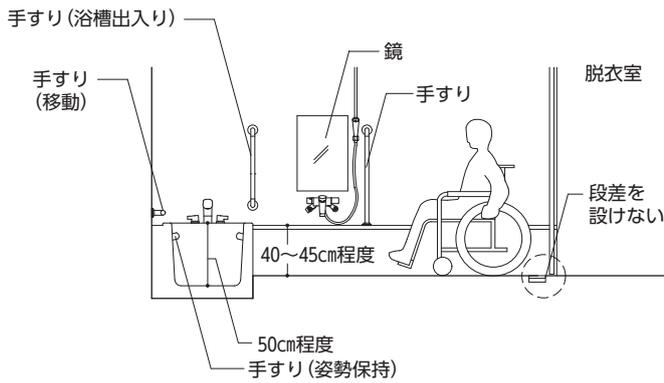
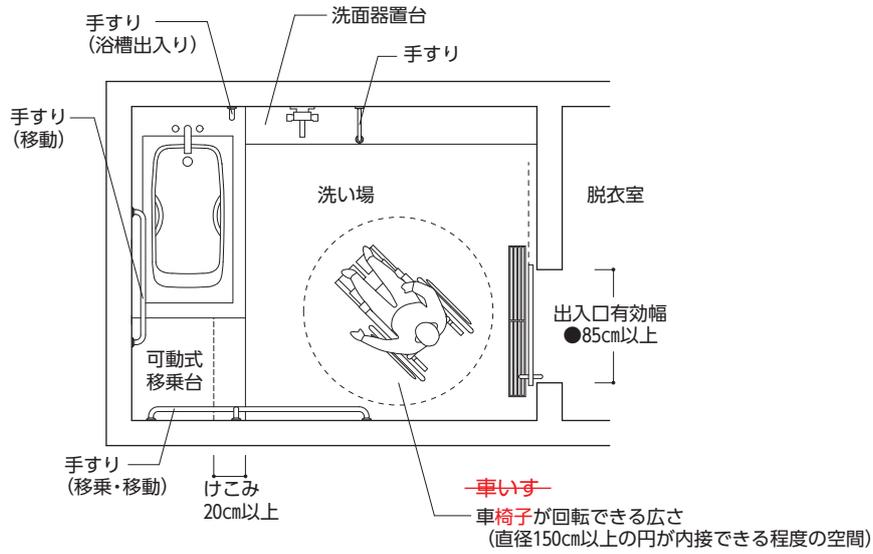
■ 壁掛式低受け口

■ 床置き式ストール

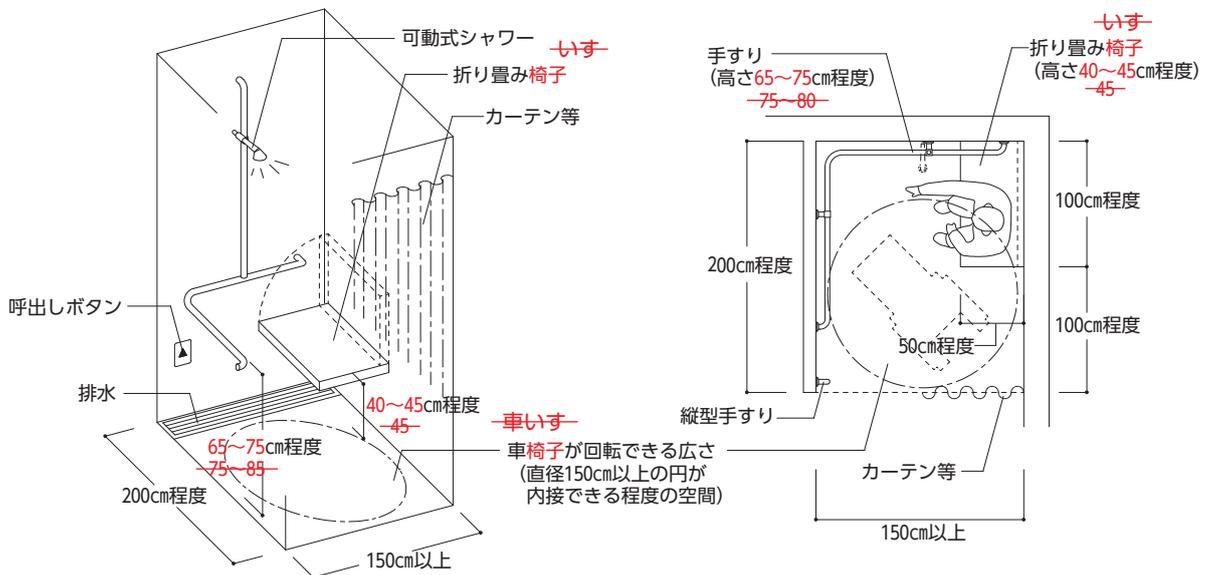


# 《 参 考 図 》

【図9.1】 小規模な浴室の例



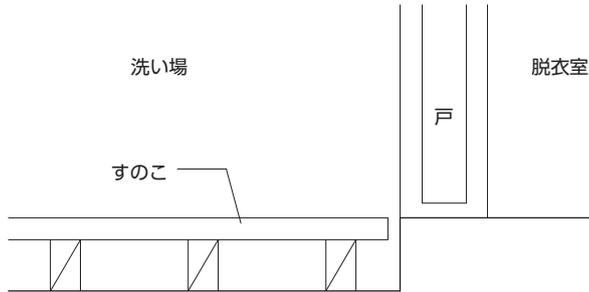
【図9.2】 車椅子使用者ブースの例



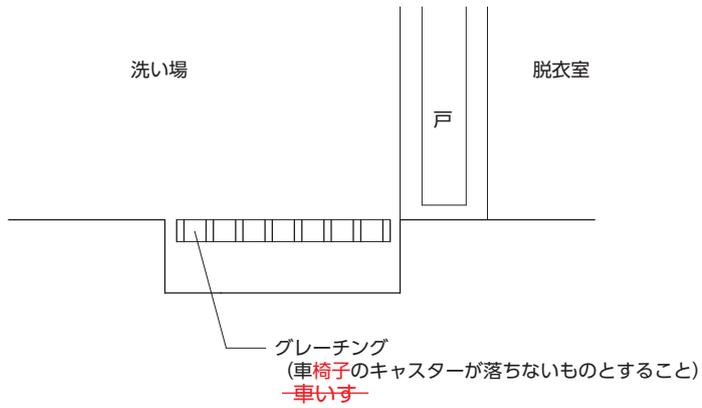
# 《 参 考 図 》

【図9.3】 出入口の段差解消例

■すのこによる場合



■グレーチングによる場合



## 《 参 考 図 》

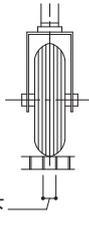
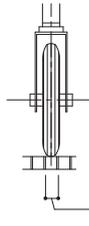
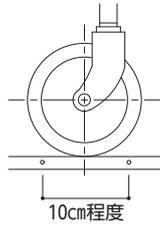
【図10.1】 ~~車いす~~ 車椅子の前輪が落下しない配慮

■車椅子前輪の大きさ ~~車いす~~

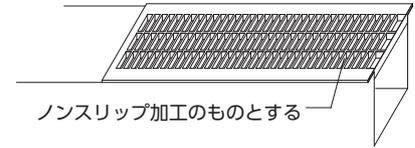
■手動車椅子 ~~車いす~~

■電動車椅子 ~~車いす~~

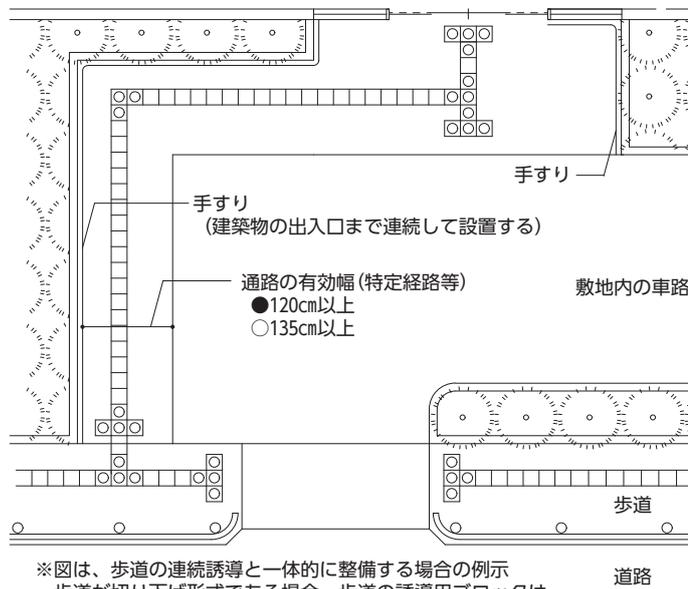
■蓋の概要 ~~ふた~~



すき間10mm以下



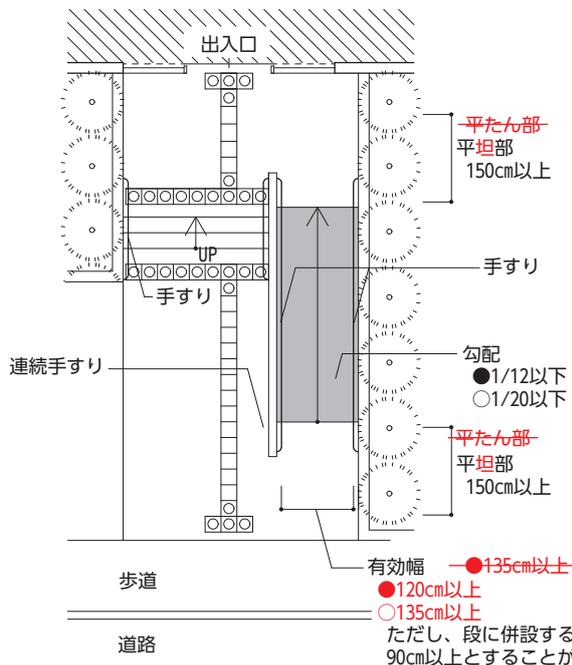
【図10.2】 敷地内の通路



- ・敷地内の車路とは別に通路を設ける
- ・視覚障害者誘導用ブロックを敷設する(原則黄色)

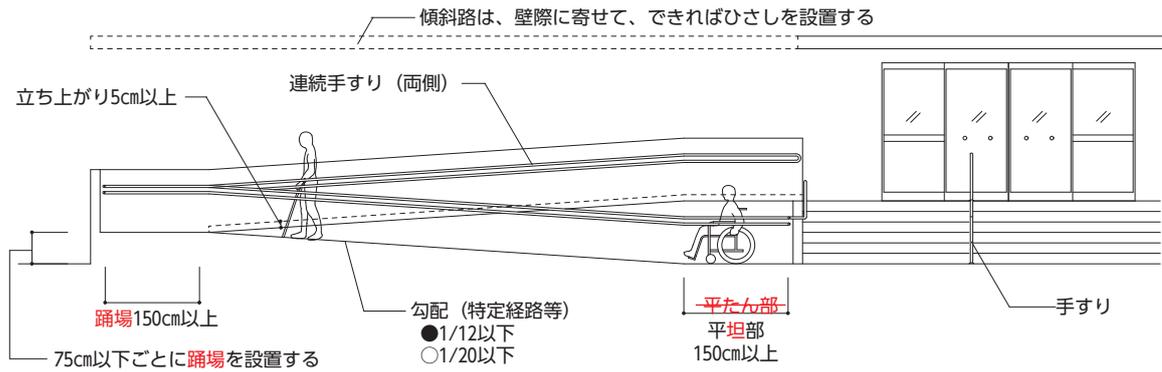
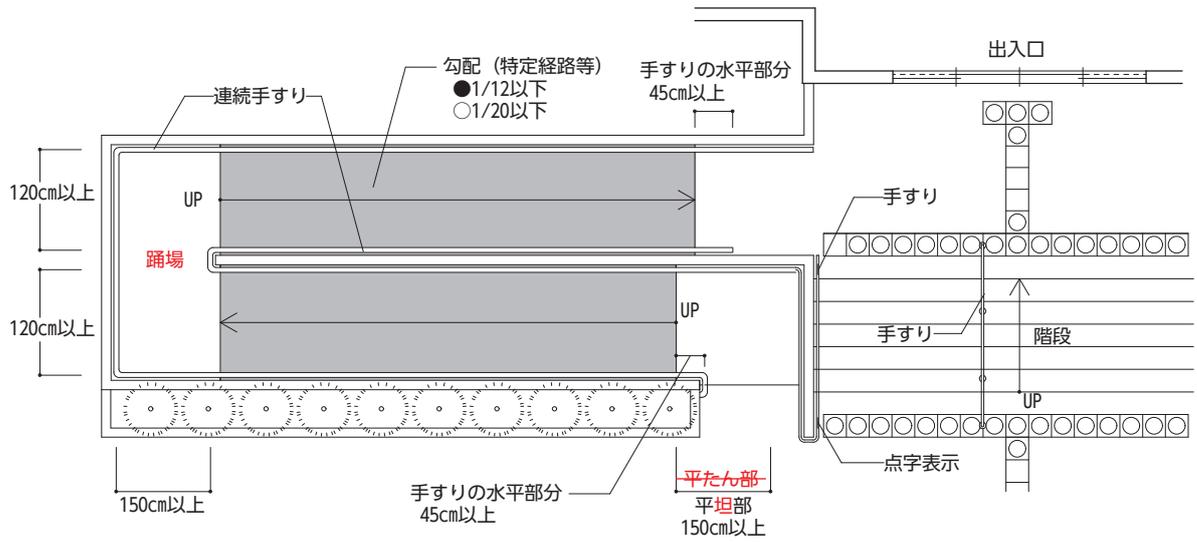
※図は、歩道の連続誘導と一体的に整備する場合の例示  
歩道が切り下げ形式である場合、歩道の誘導用ブロックは連続して敷設させる

【図10.3】 階段と傾斜路を併設した敷地内の通路



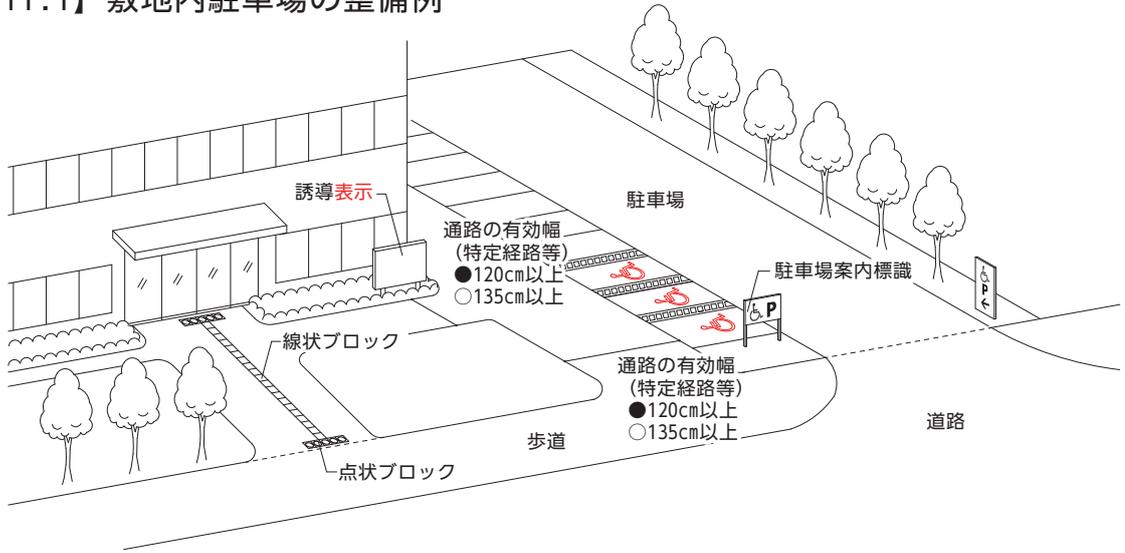
# 《 参 考 図 》

【図10.4】敷地内の通路に傾斜路を設けた例

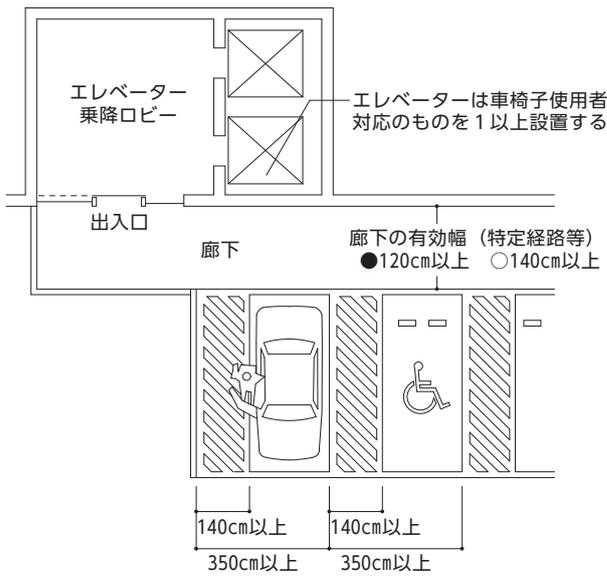


# 《 参 考 図 》

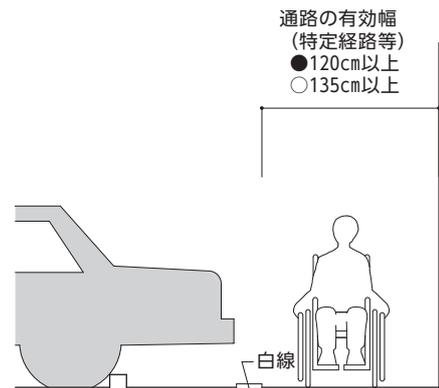
【図11.1】敷地内駐車場の整備例



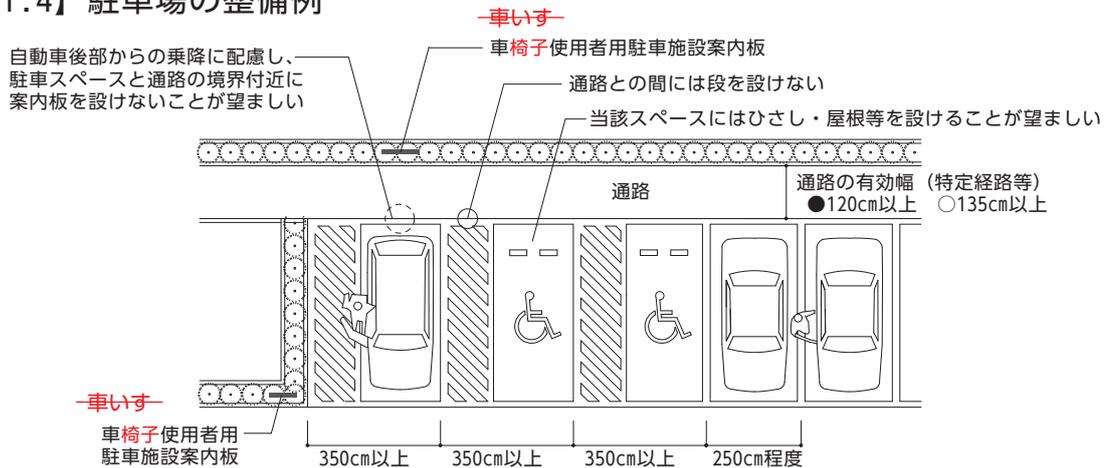
【図11.2】屋内駐車場の整備例



【図11.3】駐車スペース後ろに通路を設ける場合

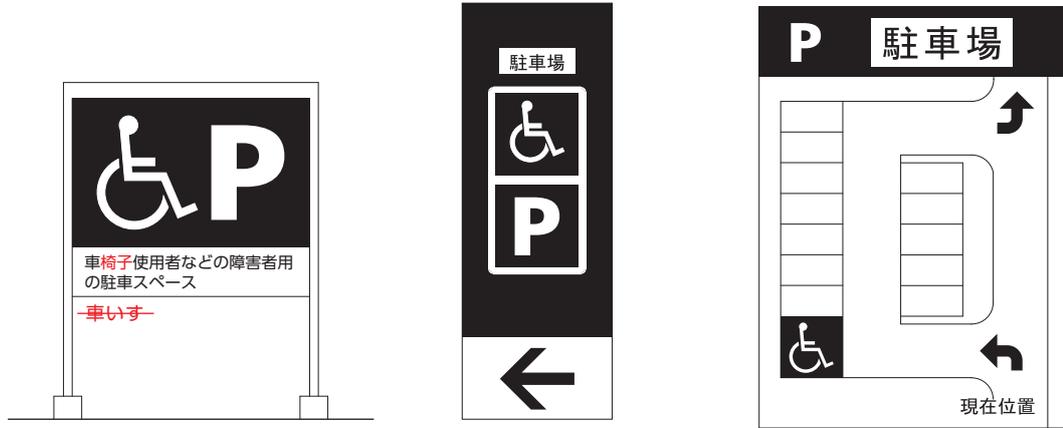


【図11.4】駐車場の整備例



## 《 参 考 図 》

【図11.5】 立札による表示例



### 《コラム》

#### ■機械式駐車場

車椅子使用者用駐車施設は平置きを原則とする。ただし、敷地の状況等によりやむを得ず機械式駐車場に車椅子使用者用駐車施設を設ける場合には、整備基準に適合するものとし、高齢者、障害者等が車の乗降に支障なく、円滑に利用できるものとする。そのため、車椅子使用者が管理人等の介助がなくても自力で乗降できるものとし、人的介助のみを前提とした通常の機械式駐車場は該当しない。

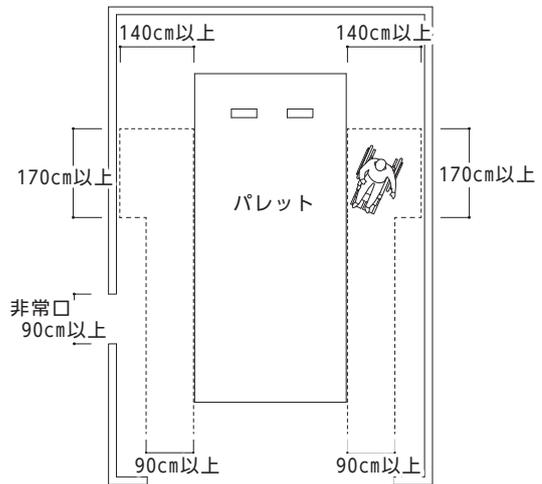
また、当該車椅子使用者用駐車施設から利用居室等までの経路は移動等円滑化経路等、当該車椅子使用者用駐車施設から各住戸までの経路は特定経路等となるため、経路上に段差を設けてはならない。

さらに、機械式駐車場技術基準のバリアフリー対応駐車装置の基準を参考とする。

#### 【参考】機械式駐車場技術基準（主な内容）

- ・ 人の通路は、幅90cm以上、高さ190cm以上、段差及びすき間は2cm以下とすること。
- ・ 非常口へ通ずる通路も上記に準ずることとし、非常口は、90cm以上、高さ190cm以上で、内側から容易に開けられるようにすること。
- ・ 自動車への乗降部分は車椅子の転回を考慮して、車椅子の進行方向に対して幅140cm以上、奥行き170cm以上の空間を確保すること。
- ・ バリアフリー対応駐車装置の操作盤の少なくとも1面は、車椅子に乗ったままで操作できるよう床面から100cm程度の高さに設けること。
- ・ 一部の収容台数に対してバリアフリー対応駐車装置を適用する場合は、該当する搬器とそれ以外を識別できるように色分け、マーキング等の処置を施すこと。
- ・ その他の基準については、「機械式駐車場技術基準・同解説 2017年版」（公益社団法人 立体駐車場工業会）を参照すること。

#### 機械式駐車場に車椅子使用者用駐車施設を設けた例



## 《 参 考 図 》

【図12.1】案内標示の例

### ■誘導サイン（つり下げ型等の形式）

① エレベーター



~~だれでもトイレ~~

② 上りエスカレーター



③ トイレ（便房内に設置された設備のピクトグラムをあわせて表示）



乳幼児設備の  
ピクトグラム削除

### ■位置サイン

① エレベーター



~~だれでもトイレ~~

② 上りエスカレーター



~~車いす~~  
③ 車椅子使用者用便房

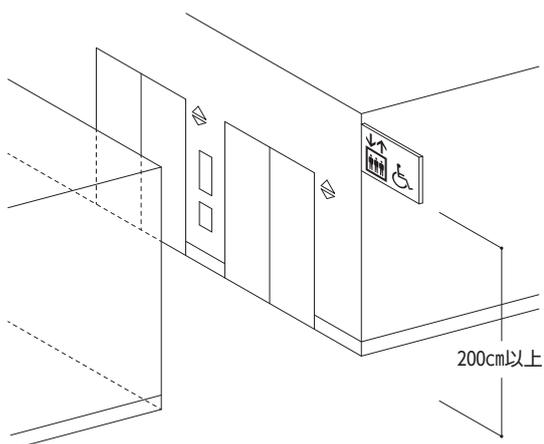


④ トイレ（便房内に設置された設備のピクトグラムをあわせて表示）

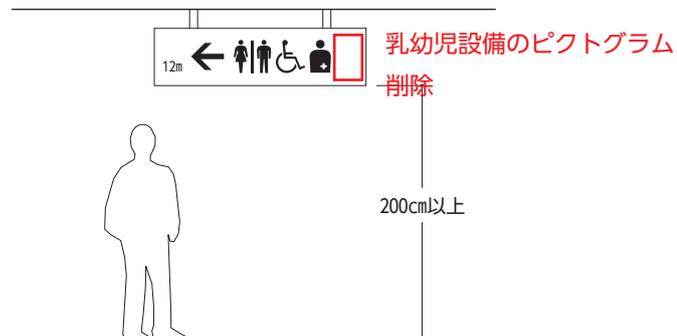


乳幼児設備のピクトグラム  
削除

【図12.2】突出型標識の例

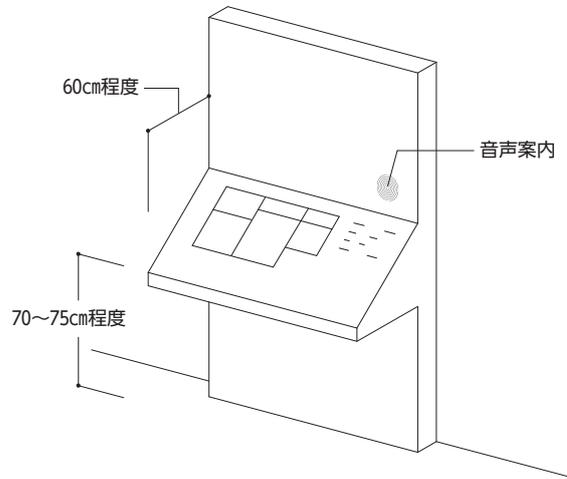


【図12.3】つり下げ型標識の例

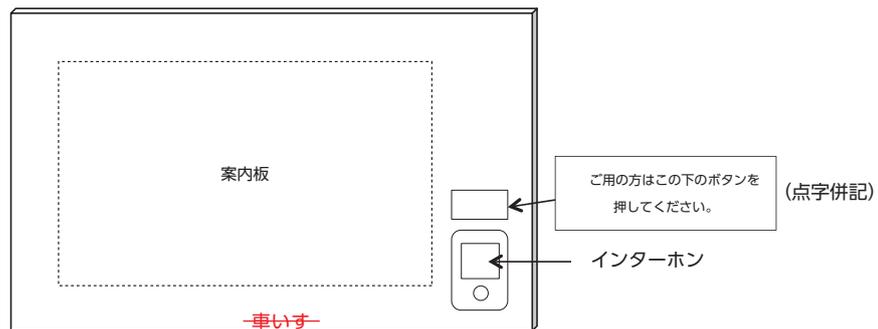


## 《 参 考 図 》

【図13.1】案内板の設置例

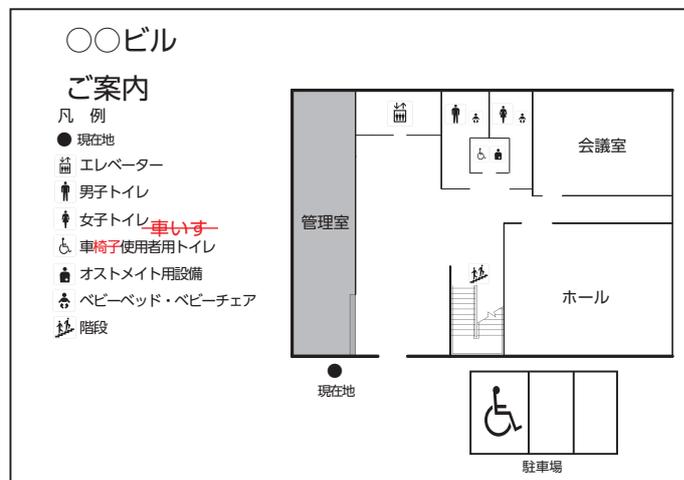


### ■インターホンを設置し、垂直に取り付けた案内設備の例



- ・設置高さは目線の低い車椅子使用者にも配慮する。
- ・表示方法等は JIS T 0922 に準じる。

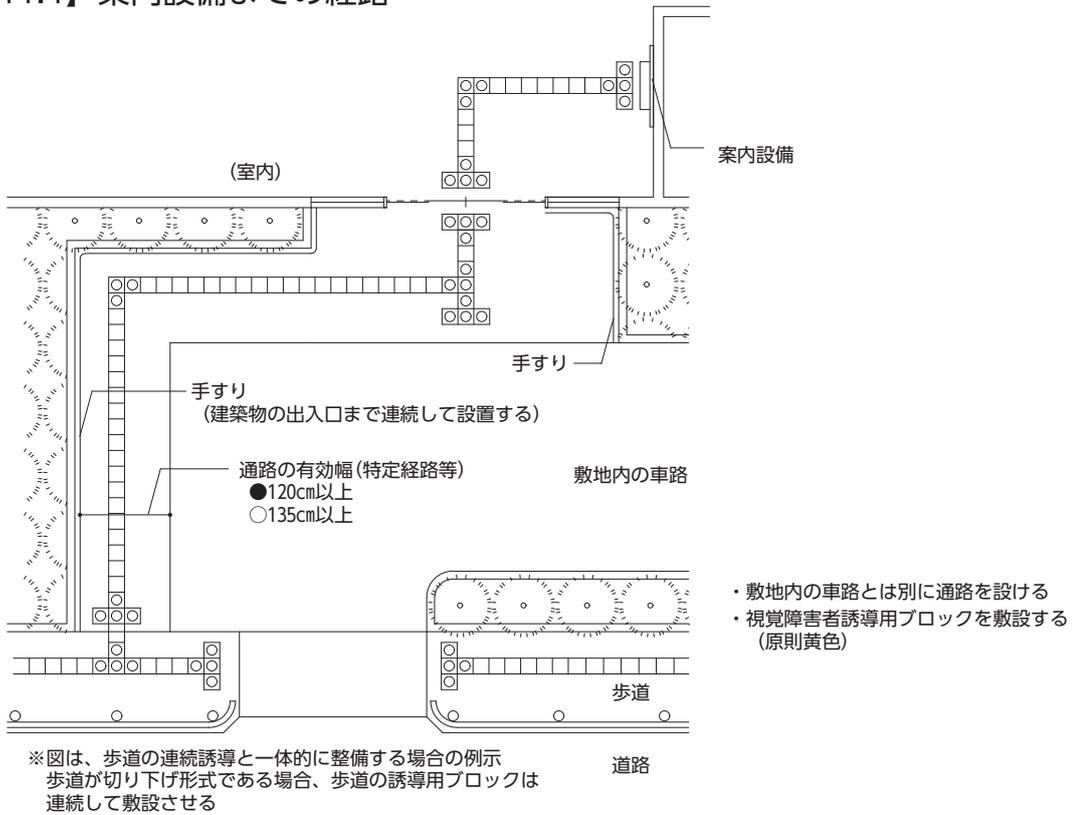
【図13.2】案内板の表示例



- ・大きめの文字や分かりやすい図とし、色や明度差に配慮し、弱視者、色弱者にも見えやすいようにする。
- ・表示方法等は JIS T 0922 に準じる。

# 《 参 考 図 》

【図14.1】案内設備までの経路

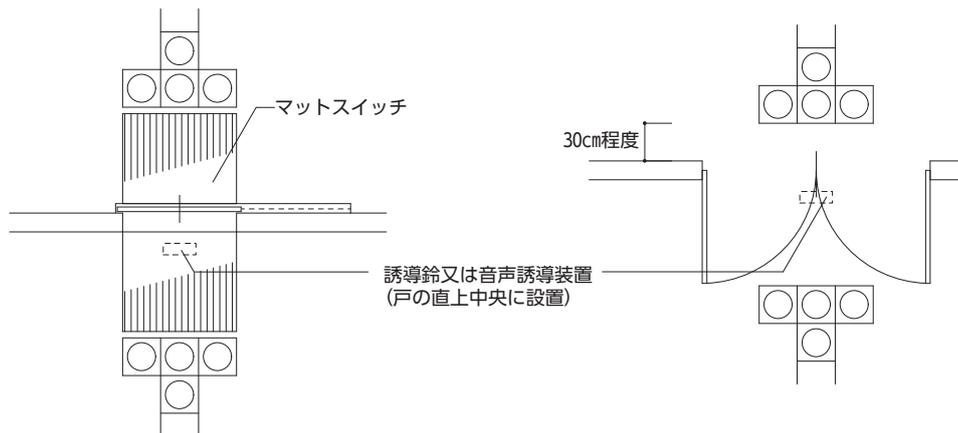


【図14.2】出入口(玄関)付近での設置例

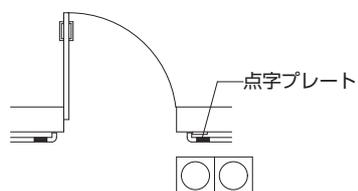
■自動扉の場合

(マットスイッチを設けた場合)

■開き扉の場合



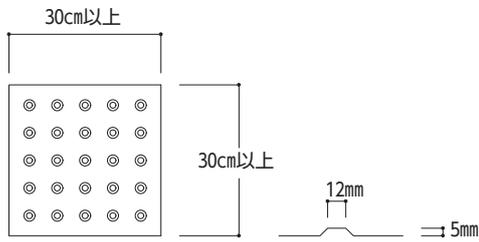
【図14.3】出入口(居室等)付近での設置例



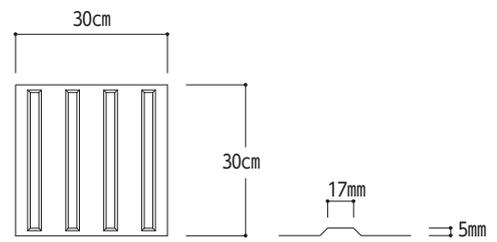
# 《 参 考 図 》

【図14.4】 種類 (JIS T 9251による 資-224~226 参照)

■点状ブロック

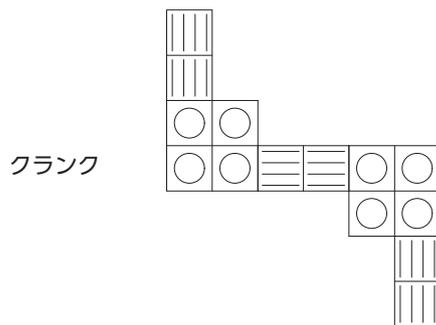
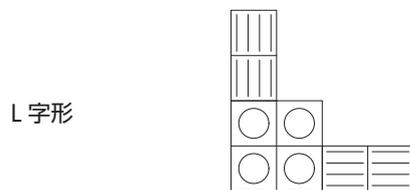
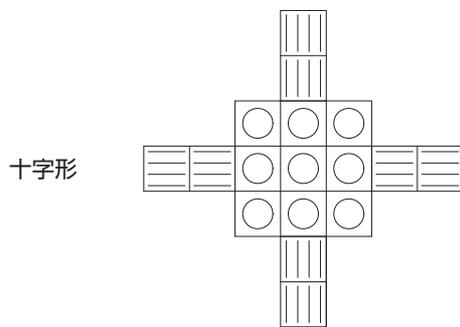
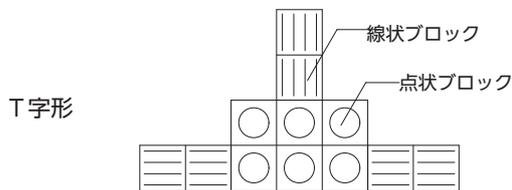


■線状ブロック

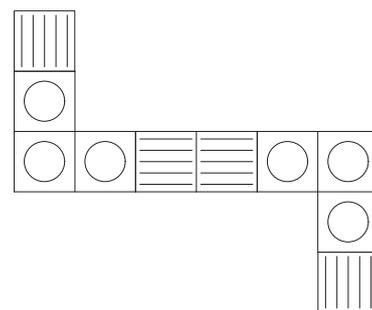
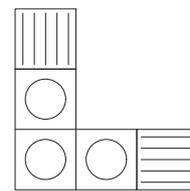
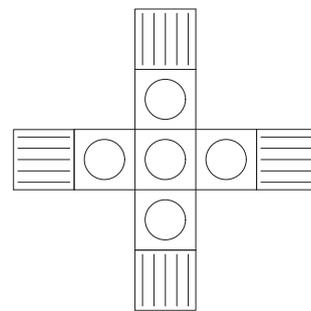
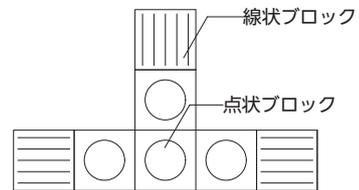


【図14.5】 経路分岐点における標準的な敷設方法の例

■30cm角の場合

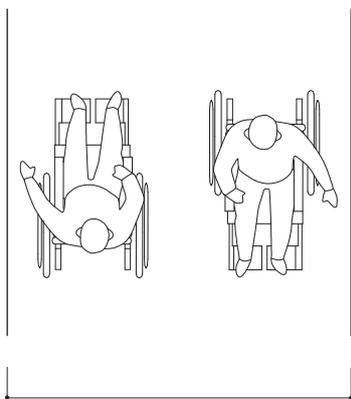


■40cm角の場合



# 《 参 考 図 》

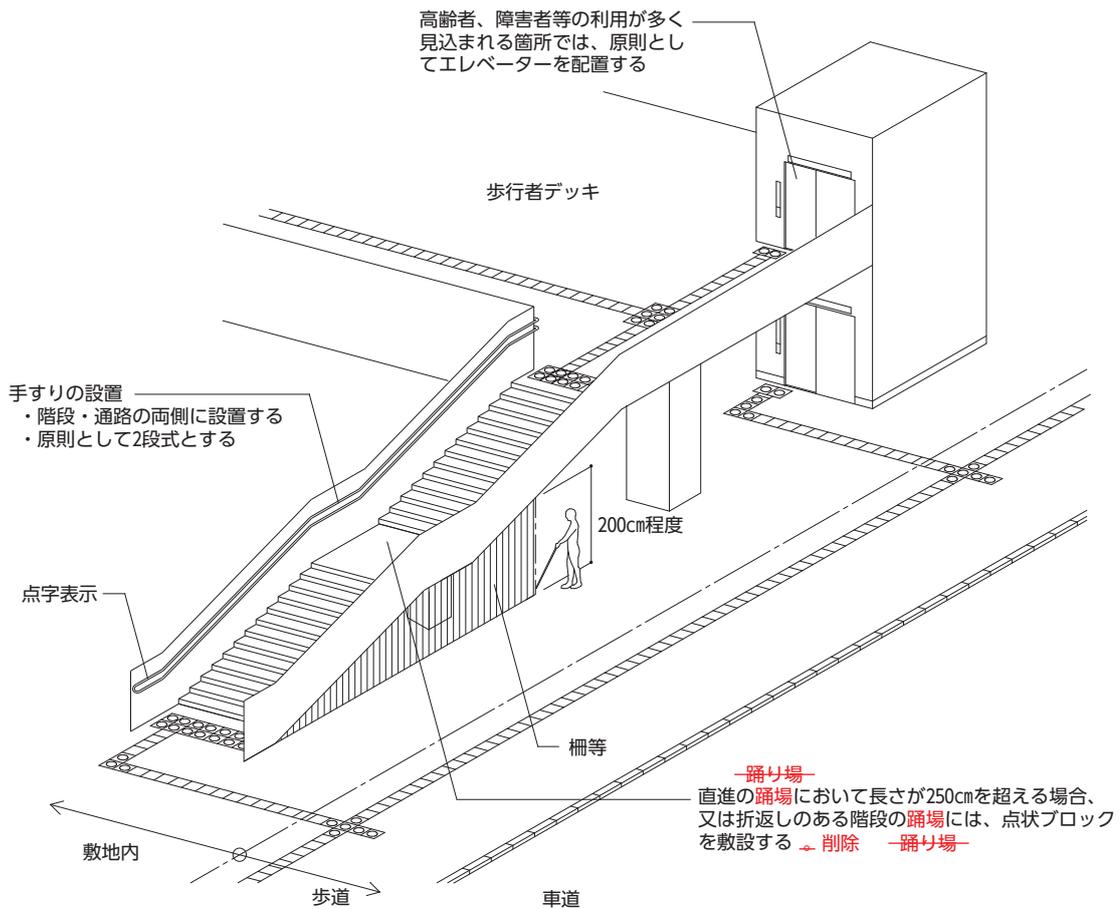
## 【図15.1】 公共的通路の幅



200cm

※車椅子使用者同士が、よりすれ違いやすい幅  
~~車いす~~

## 【図15.2】 歩行者デッキの例



高齢者、障害者等の利用が多く見込まれる箇所では、原則としてエレベーターを配置する

歩行者デッキ

手すりの設置

- ・階段・通路の両側に設置する
- ・原則として2段式とする

点字表示

200cm程度

柵等

敷地内

歩道

車道

~~踊り場~~  
直進の踊り場において長さが250cmを超える場合、又は折返しのある階段の踊り場には、点状ブロックを敷設する。  
削除 ~~踊り場~~

# 《 参 考 図 》

【図15.3】 公共的通路の有効幅と建築限界(高さ空間の確保)

